

[019] 九州文化史研究所所蔵古文書目録 : 吉田家文書

九州大学九州文化史研究施設

<https://doi.org/10.15017/7157003>

出版情報 : 19, 1994-03-25. 九州大学文学部附属九州文化史研究施設
バージョン :
権利関係 :

九州文化史研究所所蔵古文書目録 十九

九州大学九州文化史研究施設

吉田家文書

凡例

- 一、本研究所所蔵に係る古文書目録の第十九輯として、「吉田家文書」を収録した。
- 一、吉田家は、播磨国姫路の北、八代村の出身で、八代長利が姫路城主小寺（黒田）孝高に仕えて、赤松氏の一族吉田の姓を与えられ、黒田孝高・長政の豊前・筑前入国に随ったが、以後吉田家では江戸時代中・後期に福岡藩の家老など要職を歴任した者が多い。なお、元和九年（一六三三）長政の四男高政が福岡支藩の東蓮寺藩四万石に分知された時、吉田長利の子重成は、これに付き随っている。
- 一、同家史料は、右の事情を反映して、黒田孝高や長政以降の福岡藩主歴代の書状のほか、黒田高政関係のものが少なくない。このため特に後者によって、東蓮寺藩成立期の所領経営の実態をうかがうことができる。さらに、福岡藩家老を務めた吉田治年による『吉田家伝録』『此君居秘録』、またその子栄年以降について記した『吉田統家伝録』、それに貴重な「福岡城下図」など、約八〇〇点がある。これらは昭和三十七年、吉田ハル氏より寄贈を受けたものである。
- 一、史料の分類に際しては、吉田家が福岡藩家老を務めた家柄であり、本藩の行財政に深く関与していることから、この点に留意する分類方法をとった。「吉田家文書」では、同家が東蓮寺（直方）藩主黒田高政との関係から「東蓮寺（直方）」の項目を立てた。
- 一、なお、史料の記載内容により、截然とは分類できぬものもある。また、幾つかの項目に該当するものは、適宜いずれか一方に収めたので、利用者は全項目に目を通していただきたい。
- 一、形状中、書綴・長綴・小横綴とあるものは、それぞれ書冊様・長帳様・小横帳様の綴にしたものである。なお、明治以降の史料には、冊・綴以外の形状記載は略した。
- 一、年代を推定したものは、（ ）を付けて区別した。
- 一、史料題名の下の（ ）内に表示した番号が、その史料の整理番号である。
- 一、本目録の作成には、丸山雍成・田中良之・宮崎克則の合議・協力を得て、楠本美智子があたった。

吉田家系図

長利 | 重成 | 知年 | 増年 | 治年 | 栄年 | 保年 | 直年 | 経年 | 延年
慶長6 | 寛永15 | 延宝元 | 貞享3 | 享保6 | 延享2 | 宝曆2 | 安永2 | 文化14

(年号は家督相続年)

目次

1	對幕府關係	一頁
2	黒田藩主關係	二頁
(1)	福岡	二頁
(2)	東蓮寺(直方)	五頁
(3)	秋月	一七頁
3	他家關係	一七頁
4	家譜・系図	一八頁
5	藩政	一九頁
(1)	藩政	一九頁
(2)	役職	二三頁
(3)	日誌	二六頁
6	黒田家臣・又家来	二八頁
(1)	知行宛行	二八頁
(2)	家臣・又家来	三〇頁
7	武備・武術	三一頁
(1)	兵法	三一頁
(2)	武具	三二頁
(3)	備	三二頁
8	土地	三二頁
9	絵図	三五頁
10	吉田家	三五頁

吉田家文書

1 对幕府関係

- 一 長政様島原御出陣萬覚
(江戸前期) (四九)
- 二 肥前国原之城江高政公御出陣行列
寛永十五年正月十八日 (四九三)
- 三 書状写
寛永十七年 (四九二)
- 四 島原一件野村宗理覚書 全
元禄三年二月 (五)
- 五 従長利公先年肥前国有馬御陳之節重成公知年公御働之次第御尋ニ付有増申上ル覚書
延宝九年三月二十七日 (九九)
- 六 肥州於原ノ城神原飛弾守働之儀ニ付テ松平豆州ニ対申分ノ書付(四九二)
(江戸初期) (四九〇)
- 七 大塚直重方来候書附
享保七年三月十一日 (四七六)
- 八 竹森新左衛門書状之写
無益久太夫嶋原出陣の際の模様 (三三五)

吉田家文書

(明曆二年)五月二十三日
竹森新右衛門利友と黒田三左衛門外三名宛。明曆二年五月暹羅船長崎入津之事
長綴(包紙入)一綴 (九〇)

九 覚

- 一〇 (仮題) 京都へ御使者相勤一件
(宝曆四年) (八九)
- 二 長崎御番鍋嶋信濃守様御病氣御下国御延引ニ付鍋嶋和泉守様と御代番御願云々
明和六年七月五日 (二五五)
- 三 長崎一巻諸書集
安永四年 (六)
- 直年写 折本(小) 一冊
- 三 魯西亞船渡来記
文化二年五月、四年四月 (三九)
- 四 日記(断片)
文化十四、文政四、五、六、十一年 (四三五)
- 五 長崎三番日記
長崎式番御番 断簡 一括 (一一)
- 天保六年 小横帳 一冊
- 六 覚
(天保十三年) 切紙(包紙入)一通 (四七六)
- 吉田六郎太夫(盛年)宛。長崎御番在番中唐人共不隠いに付

一七 覚

(江戸期)

長崎御番所御修履云々

(四四五の一)
切紙 一通

一八 書状

(江戸期)十月二三日

栄年宛。長崎御番所御修履之御下書之件

(四四五の二)
切紙 一通

一九 長崎聞役花房平次兵衛ニ相渡ひ書付

享保十六年九月八日

長崎御番所御蔵并小屋修履之儀云々

(四四五の三)
切紙 一通

二〇 覚

(江戸期)

此方御目付方佐賀聞役江相渡ひ様可被仰付覚書之案文

(四四五の四)
巻紙 一通

二一 口上ニ而申達趣

(江戸期)

長崎御番所御修履銀。此方御目付方佐賀聞役江口上ニ而申伸ひ様ニ可被仰付哉之趣案文

(四四五の五)
切紙 一通

二二 口上之覚

(江戸期)

長崎御番所修履之儀

(四四五の六)
切紙 一通

二三 両御番所御臺場等御巡見之御次第書

嘉永六年

長崎御越座御免駕方之覚書

(一九八)
長帳(小) 一冊

二四 侍従様四月立御名代初長崎御越座御免駕方之覚書

嘉永六年五月十三日

(一九七)
長帳(小) 一冊

二五 書状

(江戸中期)九月二十六日

吉田七左衛門方丹 安左衛門宛。石火失、大筒、火通しの儀云々

(三七一)
巻紙 一通

二六 覚

(江戸中期)六月二日

長崎御番関係箇条書。松平丹後守への奉書并添状遣ひ。使番其外表立不参之者外

(四四六)
巻紙 一通

二七 書状

(江戸中期)

朝倉因幡守方松平和泉守(宣政)宛。大納言様日光の御社参相濟ひ而恐悦至極

(三九九)
折紙 一通

二八 覚

(江戸期)

西原武右衛門外方市郎太夫宛。番所修履之儀長崎町人ニ請合せ入目銀に付

(三三三)
折紙 一通

2 黒田藩主関係

(1) 福岡

一 黒田如水・長政状写

(江戸初期)

(二〇八)
巻紙 一通

黒田長政誓紙(慶長四年後三月吉日)・黒田長政誓紙(慶長五年九月二十九日)・黒田長政書状(仲冬十八日吉川広家宛)・黒田如水書状(九月三日吉川広家宛)・黒田如水書状(十月四日吉川広家宛)

二 長政公御遺言書之写

天明六年改

(二〇二)
巻紙(袋入) 一卷

三 長政御書状写

元和四年卯月二十五日

(三三五)
折紙 一通

長政方村田出羽守・吉田七左衛門・堀平右衛門・野口左介宛。那珂郡、春日原田島開云々。村田加兵衛所持

四集書 全

(江戸期)

長政遺書(元和八年)、家老中誓紙前書(明和二年)外

折本 一冊

(八)

五 御遺書類簿

(近世後期)

黒田長政遺言書写(元和九年八月二日)・黒田長政遺言書写(元和九年八月二日)

折本(小) 一通

(七)

日小河内蔵允・栗山大膳宛・黒田光之遺言書写(宝永四年五月十一日)

六 長政公ヨリ益田玄蕃へ被遣御書案一通

(江戸期)卯月二十日

折紙(包紙入)一通

(三四九)

利休なつめ進入申ひ

七 黒田藩主遺言状扣写

1 覚写

文禄二年八月九日写

一紙 一通

(四五の二)

官人(如水)ほかのかみ(長政)宛

2 萬心持遺言之帳写

元和九年七月二十七日

書冊 一冊

(四五の二)

長政右衛門佐宛

3 家中奉公人知行出入扣写

元和九年七月二十七日

書冊 一冊

(四五の三)

長政右衛門佐宛

4 家中奉公人之内放扶持帳写

元和九年七月二十七日

書冊 一冊

(四五の四)

長政右衛門佐宛

5 遺言之覚

元和九年八月二日

巻紙 一通

(四五の五)

長政右小河内蔵允・栗山大膳宛

6 覚

(元和九年)八月十一日

一紙 一通

(四五の六)

不断行儀之事に關す。一、てならいの事外

7 御遺言草案之裏ニ記有之條々写

元和九年八月朔日

一紙 一通

(四五の七)

8 覚

(江戸前期)

一紙 一通

(四五の八)

登城無懈怠事外

9 覚書写

宝永二年十二月二十三日

切紙 一通

(四五の九)

黒田光之右松平肥前守宛

10 覚

宝永三年九月二十一日

一紙 一通

(四五の一〇)

根本金大夫・藤井勘右衛門外。御意を以書付置、光之公遺体東長寺ニ葬

送

11 書状写

宝永三年十二月二十三日

折紙 一通

(四五の一一)

右衛門佐光之右松平肥前守宛

12 遺言之覚

宝永四年五月十一日

一紙 一通

(四五の一二)

光之右黒田源左衛門外九名宛

13 遺言之覚

宝永四年五月十一日

一紙 一通

(四五の一三)

右衛門佐右松平肥前守宛

ハ 寛永九年忠之公ヨリ吉田老岐殿江遣した御書写

元禄十六年九月二十三日写

巻紙(包紙入)一通

(四一六)

九(仮題)為扶助知行宛行状
吉田七左衛門・吉田丑之介と吉田久太夫宛
寛永十八年二月三日

(四八二)
切紙 一通

忠之(花押)と伊藤次郎右衛門宛

二〇書状

(江戸中期)十一月二十八日

(三四七)
切紙 一通

忠之と黒 市正宛。於長崎人数入りハ、奉行衆と申次第ニ可差置旨云々

二一經年様御書

享和三年閏正月

(二五六)
切紙(包紙入)二通

如水・長政・忠之公御書写の事

二三肥前守様御檢之写

天和元十月二十一日

(三九五)
一紙 一通

肥前守と吉田六郎太夫宛。おふき持參の提重之由ニ而給り付遣申事ニ

三四綱政御書(虫損)

(江戸期)

(三九八)
一通

四五書状写

(享保四年)十一月二十八日

(四〇四)
折紙(包紙入)二通

繼高と野村六郎兵衛・吉田式部・浦上三郎兵衛宛。宣政隠居、繼高家督相統

に付長崎御番も不相替被仰付

五六書状

(江戸期)十一月二十八日

(四〇五)
折紙(包紙入)一通

繼高(花押)と吉田式部宛。宣政隠居、繼高家督相統

六 繼高公御書

一書状

享保元年五月二十八日

(四〇七の二)
折紙 一通

松平筑前守繼高(花押)と伊勢守宛。吉田式部へ禄高加増

二書状(破損)

享保二十一年正月二十一日

(四〇七の二)
包紙入二通

繼高と六郎太夫宛

二七書状

享保十八年十一月十三日

(三八六の二)
折紙(包紙入)一通

繼高(花押)と吉田六郎太夫宛。褒賞の事、無怠可相勤也

二八書状

享保十八年十一月十三日

(三六八の二)
折紙(包紙入)二通

永嶋平助と吉田六郎太夫宛。(繼高)御直筆之御書を以被仰遣

二九書状

元文二年閏十一月十五日

(四二二の二)
卷紙(包紙入)一通

繼高と榮年宛。構之様子前々御つゝしミうすく

三〇書状

寛保元年十二月二十六日

(四二二の二)
折紙 二通

筑前守繼高(花押)と吉田六郎太夫宛。弓獵之小鴨遣。付、高原四郎兵衛添

状

三一書状

(江戸期)臘月十五日

(四二二の三)
折紙 一通

筑前守繼高(花押)と吉田六郎太夫宛。弓獵之小鴨遣

三二御献上の覚

元文四年三月九日

(三五〇)
切紙 三通

付、三芳喜太夫書付一通、高原次郎兵衛様御奉書一通

三三書状写

(明和八年)十二月十五日

(三九六)
折紙 一通

治之と大音彦左衛門・吉田久兵衛・毛利内記・吉田彈番宛。繼高隠居、治之家督相統

函書状

(江戸中期)二月二十八日

折紙(包紙入)一通

幸と吉田六郎大夫宛。包紙上書「繼高公奥方桂光院様と六郎大夫榮年江御直筆御書之去秋云々とし古御判物帖ニ記サレタリ」

三 長知公江御書連印

(江戸期)

切紙 一通

黒田一葦外名元書上

三 書付

(明治以降)

切紙 七通

黒田内政関係

三 龍光院殿如水円清大居士碑銘并序

(明治以降)

書綴 一綴

三 芸州太守黒田長政公碑銘并序

(明治以降)

書綴 一綴

(2) 東蓮寺(直方)

三 (仮題)直方知行関係

(江戸初期)

八点

1 知行高目録

元和九年閏八月二十三日

書冊 一冊

忠之(朱印)と黒田官兵衛宛

2 官兵衛ニ付ル知行取之帳

元和九年閏八月二十三日

書冊 一冊

忠之(朱印)と吉田七右衛門宛

3 馬乗衆知行割帳

寛永元年七月吉日

書冊 一冊

(三四〇)

4 切米帳

寛永元年七月十二日

書冊 一冊

高政(朱印)と吉田七左衛門宛。筆者渡辺惣兵衛・明石助九郎

5 江戸相詰衆諸扶持之帳

寛永元年七月十二日

書冊 一冊

高政(朱印)と吉田七左衛門宛。筆者は九三の四に同じ。

6 代官村付之帳

寛永元年十二月二十日

書冊 一冊

高政(朱印)と吉田七左衛門宛

7 御切米割帳

寛永三年十月十二日

書冊 一冊

高政

8 (仮題)黒田高政御印切手

寛永十一年九月五日

一紙 一通

高政(朱印)と吉田老岐守宛。其方屋敷之蔵ニ在之払錢大黒銀神崎安右衛門

ニ可被相濟事

三 書状

(元和九年)十一月六日

巻紙 一通

黒 官兵衛高政(花押)と吉田七左衛門宛。分国に際し

三 書状

(江戸初期)八月四日

切紙 一通

高政(花押)と吉田七左衛門宛。爰元別条無之

三 書状

(江戸初期)八月二日

巻紙 一通

市正高政(花押)と吉田右馬太夫宛。餌指の処分

三 書状

(元和九年)十一月六日

(六二二の四)
巻紙 一通

黒官兵衛高政と吉田七左衛門宛。分国に際し家臣の処遇

四 書状

(江戸初期)三月十九日

(三七三)
折紙 一通

黒官兵衛高政と吉田七左衛門宛。月成茂左衛門等未参着不申、茶詰申度靈の
事外

五 書状

(江戸初期)七月二十一日

(三五九)
折紙 一通

黒官兵衛(花押)と吉田七左衛門宛。具足之儀

六 書状

(江戸初期)霜月十一日

(三六〇)
折紙 一通

黒官兵衛高政(花押)と吉田七左衛門宛。爰元御普請相済出人之者下り間

七 書状

(江戸初期)七月十七日

(三六一)
折紙 一通

官兵衛高政と吉田右馬大夫宛。明石市郎右衛門差下り間云々

八 高政御書

(江戸初期)

(五六二)
巻子 一卷

1 書状

(江戸初期)卯月十一日

(五六二の二)
一通

高政(花押)と吉田七左衛門宛。忠之公御息災云々

2 書状

(江戸期)六月十二日

(五六二の三)
一通

黒 官兵衛高政(花押)と吉田七左衛門宛。御普請はか参り由

3 書状

(江戸初期)六月二十四日

(五六二の三)
一通

4 書状

高政花押と吉田七左衛門宛。忠之公俄ニ此地被成御下ニ付云々
(五六二の四)

(江戸初期)九月晦日

5 書状

市正(花押)と吉田宛。きりしたん改之制札木屋瀬ニ立いて可然し
(五六二の五)

(江戸初期)十一月六日

黒田官兵衛高政(花押)と吉田七左衛門宛。水庵死去に付悔み状

六 書状

(江戸初期)五月二十五日

(六一〇)
切紙 一通

市正高政(花押)と吉田老岐宛。不断焼之伽羅越可被申、金銀帳目録見届以外

七 書状

(江戸初期)十月十三日

(三八二)
折紙 一通

市正高政(花押)と吉田老岐守・山中小右衛門・広瀬九左衛門宛。滝田五郎左
衛門走り申し

八 書状

(江戸初期)八月五日

(三八〇)
折紙 一通

市正高政(花押)と吉田老岐守宛。松平五右衛門儀忠之公へ御任言申上り処
先納借銀残分御差捨云々

九 書状

(江戸初期)極月二十五日

(三七四)
折紙 一通

市正高政(花押)と吉田老岐宛。花入出来申ニ付外

一〇 書状

(江戸初期)九月二十八日

(三五二)
折紙 一通

市正高政(花押)と吉田老岐宛。魚町の相撲取り相抱可被越し

一一 書状

(江戸初期)六月七日

(三五三)
折紙 一通

一二 書状

翌書状

市正高政と吉田老岐宛。金銀請払帳目録見届、預り之切手の事外

(江戸初期) 卯月二十八日

折紙 一通 (三五四)

翌書状

市正高政と吉田老岐守宛。唐津寺沢殿死去に付云々

(江戸初期) 卯月七日

折紙 一通 (三五五)

翌書状

市正高政と吉田老岐宛。伊豆より運搬の石上げの者雇い件

(江戸初期) 八月二十一日

折紙 一通 (三五六)

翌書状

市正高政と吉田右馬大夫・明石一郎右衛門宛

(江戸初期) 八月十一日

折紙 一通 (三三九)

翌書状

市正高政と吉田老岐宛。忠之公御切手差下り間我等預切手ニ取替可被申、福山長助参り刻伽羅被差越相届り代銀切手遣外

(江戸初期) 十二月十二日

折紙 一通 (三八四)

翌書状

高政(花押)と吉田七左衛門宛。歳暮之使差下り。右馬大夫儀無事ニ下着

(江戸初期) 十一月二十六日

折紙 一通 (三八三)

翌書状

高政(花押)と吉田右馬太夫宛。本田甲斐守死去に付

(江戸初期) 九月二十二日

折紙 一通 (三八一)

翌書状

高政(花押)と吉田七左衛門宛。具足之儀九月中に出来申様、大徳寺香典外

(江戸初期) 七月十九日

切紙 一通 (三七九)

高政(花押)と吉田七左衛門宛。来年大坂普請在之様ニ相聞り間切手遣り事、

翌書状

当年八日照ニ付知行あしくい間

(江戸初期) 七月二日

折紙 一通 (三七八)

翌書状

高政(花押)と吉田七左衛門宛。花房次左御下り間、忠之公上着

(江戸初期) 五月二十六日

折紙 一通 (三七六)

翌書状

高政(花押)と吉田七左衛門宛。高山弥平次下り間

(江戸初期) 五月六日

折紙 一通 (三七五)

翌書状

高政と吉田右馬大輔外宛。小河伝兵衛差下り間

(江戸初期) 卯月二十八日

折紙 一通 (三七二)

翌書状

高政(花押)と吉田右馬大輔外宛。小河久太夫儀東蓮寺中は自由ニありきい様ニ

寛永元年七月十二日

(包紙入) 一通 (三四八)

翌書状

高政と吉田七左衛門宛。馬乗衆知行三ツ成ニ不足之村ハたし米ヲ下置り、知行割ハ忠之公へ得御意割付り

(江戸初期) 卯月九日

折紙 一通 (三五七)

翌書状

高政(花押)と吉田右馬大輔・嶋井市太夫・丹羽権左衛門・山中小右衛門宛。参勤之衆御目見被仰付

(江戸初期)

折紙 一通 (三五八)

翌書状

高政(花押)と吉田右馬大輔宛。小河団右衛門大徳寺へ指上セり

寛永十七年 参り書状写

折紙 一通 (四九二)

(江戸初期)三月七日

切紙 一通

吉田右馬大夫・瓦林平大夫と明石市右衛門・明石助九郎・月成茂左衛門・山中小右衛門外宛。市正跡目の件

六 岡伯庵来状

(四七九)

享保八年正月写

切紙(包紙入) 一通

市正(高政)跡式の件

三 書状

(三〇一)

宝永五年七月・十一月

切紙 三通

伊勢守と吉田七左衛門宛。又助婚禮目出度い、進物の礼

三 書状

(三〇二)

宝永六年七月二十一日・十二月七日

折紙 二通

伊勢守長清(花押)と吉田七左衛門宛。参勤之御礼首尾能被仰上候間珍重候外。大隅守手前留守之間御出之由

三 書状

(四三九)

宝永七年八月八日

切紙 一通

伊勢守と吉田七左衛門宛。残暑見舞

三 書状

(二二五)

正徳四年卯月七日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。養子御願之儀も暫御延引

三 書状

(二二六)

正徳四年卯月十六日

切紙 一通

吉田式部と伊勢守長清宛。当家格別之我等候へハ万事差捨国家相続之所ヲ大切ニ存

三 書状

(二二八の二)

正徳四年六月二日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。我等儀肥前守殿為名代長崎江籠越云々

六 書状

(二二八の二)

正徳四年七月三日

折紙 一通

伊勢守と吉田式部宛。長崎参着の様子、御進物の事

六 書状

(二二八の三)

正徳四年七月十一日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。肥前守殿病氣に付

七 書状

(二二七)

正徳四年七月十三日

折紙 一通

伊勢守と吉田式部宛。長崎へ出立報知

七 書状

(二二九)

正徳四年八月四日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。長崎滞留の事、江戸へ差越の書状案

七 書状

(二二二)

正徳四年九月七日

折紙 一通

黒 伊勢守長清と黒田美作・吉田式部宛。齊藤丹下隠居願の件、肥前守成行の件

七 書状

(二二三)

正徳四年九月十一日

巻紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。吉田式部当職無遠慮勤方云々

七 書状

(二二三)

正徳四年

切紙 一通

官兵衛方へ遺案文。吉田式部先達当職之断申候付

七 書状

(二二四の二)

正徳四年十月六日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。官兵衛納戸詰切代人柄の儀外

七 書状

(二二四の二)

正徳四年十月十五日 折紙 一通

伊勢守長清^方吉田式部宛。進物に対する礼、美作との面話の件

七書状 (二二四の三) 折紙 一通

正徳四年十月十七日

伊勢守長清^方吉田式部宛。井 河内寺殿^方の書状の件

七書状 (二二五の一) 折紙 一通

正徳四年二月二十二日

伊勢守長清(花押)^方吉田式部宛。雉子送付

七書状 (二二五の二) 折紙 一通

正徳四年十一月五日

伊勢守長清(花押)^方吉田式部宛。別条ないとの報知

八書状 (二二五の三) 折紙 一通

正徳四年十一月二十八日

伊勢守長清(花押)^方吉田式部宛。勅使御馳走御役相勤其以後無音罷在、肥前守当着の事

八書状 (二二六) 卷紙 一通

正徳四年十一月十七日

伊勢守^方吉田式部宛。定厳定性法事云々

九書状 (二二八) 折紙 一通

正徳四年十一月二十四日

伊勢守^方吉田式部宛。鱈子の礼

九書状 (二二七の一) 折紙 一通

正徳四年

伊勢守長清(花押)^方吉田式部宛。進物の礼

十書状 (二二七の二) 折紙 一通

正徳四年極月十九日

伊勢守長清^方吉田式部宛。寒中見舞 (二二七の三) 折紙 一通

正徳四年極月十九日

伊勢守長清^方吉田式部宛。櫛橋十左衛門江家督申付候

十一書状 (二二九) 折紙 二枚

正徳五年二月十一日

伊勢守長清(花押)^方吉田式部宛。南部大膳亮^方塩雉子佐竹求馬^方塩引鮭送候外

十二書状 (二三〇) 折紙 一通

正徳五年三月十九日

伊勢守長清(花押)^方吉田式部宛。面談の事

十三書状 (二三一) 折紙 一通

正徳五年三月二十六日

伊勢守長清(花押)^方吉田式部宛。面話の節進物の礼

十四書状 (二三二) 折紙 一通

正徳五年五月十六日

伊勢守長清(花押)^方吉田式部宛。暑氣見舞、福田七郎佐衛門病氣の問合せ外

十五書状 (二三三) 折紙 一通

正徳五年六月十六日

伊勢守長清(花押)^方吉田式部宛。浦上三郎兵衛職分之儀太慶ニ存候

十六書状 (二四五) 卷紙 一通

(正徳五年)六月二十六日

伊勢守長清^方吉田式部宛。職分之儀、其元財用の儀江戸仕送共ニ何之指支も無之様ニ在之

十七書状 (二三四) 切紙 一通

正徳五年七月五日

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。瓜の御礼状外

三三 書状

(二三五)

正徳五年八月五日

巻紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。財用方精出宜敷可被申付、我等參勤前故其元へ可罷出外

三四 書状

(二三七)

正徳五年八月十五日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。槌婚礼之儀、矢野安太夫と面談致外

三五 書状

(二三八)

正徳五年九月二十五日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。櫛橋十左衛門婚礼首尾能相調太慶候、筑前守御幸縁組の件

三六 書状

(二三九)

正徳五年九月二十六日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。饞別の礼

三七 書状

(二四〇)

正徳五年九月二十八日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。出立の挨拶、黒崎と十左衛門差戻

三八 書状

(二四一)

正徳五年十月六日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。道中より

三九 書状

(二四二)

正徳五年十月十九日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。大坂下着報知

四〇 書状

(二四六の二)

享保元年正月三日

折紙 一通

四一 書状

(二四六の二)

伊勢守長清と吉田式部宛。新年の挨拶

享保元年正月二十八日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と黒田美作・吉田式部宛。安太夫職分の儀

四二 書状

(二四七の二)

享保元年二月七日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。筑前守縁組願外

四三 書状

(二四七の二)

享保元年二月晦日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。五十の賀祝の礼

四四 書状

(二四八)

享保元年三月三日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。下国道中より、長崎番請取の件外

四五 書状

(二四九)

享保元年卯月二日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。長崎と令持参候唐茶送遣候

四六 書状

(二五〇)

享保元年卯月七日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。長崎代番被仰付、下着祝儀の礼状外

四七 書状

(二五一)

享保元年五月七日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。櫛橋又之進職分申付名前改候様申付候外

四八 書状

(二五二)

享保元年五月七日

切紙 一通

伊勢守(花押)と式部宛。安太夫屋敷替之儀外

四九 書状

(二五三)

享保元年五月十一日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。筑前守縁組祝儀遣物の事

二〇 書状

享保元年六月三日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。暑中見舞、唐人町出火

二一 書状

享保元年六月十八日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。内用相談之儀云々

二二 書状

享保元年六月二十三日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。阿蘭陀船長崎へ入津到来承之両日間直其元へ罷出致乗船

二三 書状

享保元年七月二十一日

切紙 二通

伊勢守と吉田式部宛。柴休老三〇〇両無心の件

二四 書状

享保元年七月二十一日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。阿蘭陀船かびたん入津之到来次第爰元罷立、松本弥右衛門再縁之儀外

二五 書状

享保元年八月朔日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。岐志浦より神島着船の報知

二六 書状

享保元年八月七日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。今里焼皿送付

二七 書状

享保元年正月十一日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。年賀進物

享保元年十月二十八日

卷紙 一通

伊勢守と吉田式部宛。名替に關して

二八 書状

享保元年十月二十八日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。下本庄にての獺の報知、利の婚禮祝儀外

二九 書状

享保元年十一月三日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。家老共名改に關して外

三〇 書状

享保元年十一月三日

卷紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。利婚禮相調候祝儀の件、雷鳴の報知外

三一 書状

享保元年臘月五日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。寒中見舞外

三二 書状

享保元年極月七日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。五十二罷成存之外心得共ニ替り無是非、進物の礼外

三三 書状

享保元年臘月二十五日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。肥前守隠居、筑前守元服外

三四 書状

享保二年正月五日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。年賀進物

三五 書状

享保二年正月十一日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。年賀進物

伊勢守長清と吉田式部宛。海州鷹の礼

二三 書状

(二六八)

享保二年二月八日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。我等屋敷(江戸)類焼之儀云々

二七 書状

(二六九の二)

享保二年三月十九日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。江戸屋敷類焼云々、巡見上使日程報知外

二八 書状

(二六九の二)

享保二年三月二十五日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。巡見上使衆用意并唐船之儀にて苦勞千万

存候

二九 書状

(二七〇の一)

享保二年三月二十八日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。肥前守江来候長崎御番渡之奉書云々、巡見使日程

の件外

三〇 書状

(二七〇の二)

享保二年卯月六日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。巡見使江懸御目、長崎表の様子外

三一 書状

(二七一)

(享保二年)五月三日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。長崎御番の引渡、於若松唐船漂流之儀、東長寺造

営、役交代外

三二 書状

(二七二)

享保二年五月十三日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。高木作右衛門の件、江戸交代役の件

三三 書状

(二七三)

享保二年六月十五日

折紙 二通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。馬の件、礼状

三四 書状

(二七四)

享保二年七月二十二日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。巡見上使の日程、南部大膳亮と到来品の件外

三五 書状

(二七五の一)

享保二年九月二十六日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。参勤の発足通知

三六 書状

(二七五の二)

享保二年十月八日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。黒崎にて阿蘭陀船到来の報知受候件

三七 書状

(二七五の三)

享保二年九月二十八日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。進物に対する礼

三八 書状

(二七六の一)

享保二年十月十九日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。大坂着船その後の日程外

三九 書状

(二七六の二)

享保二年十一月十二日

折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。江戸到着その後の様子

四〇 書状

(二七七)

享保二年十二月六日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。江戸より筑前守の様子、沖買仕候者召捕候儀外

四一 書状

(二七八の一)

享保三年正月三日

折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。年賀、旧臘二十八日桜田屋敷隣家辻焼失

一四 書状

享保三年二月二日
折紙 一通 (二七八の二)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。病氣見舞、唐船漂流之儀外

一三 書状

享保三年二月十六日
折紙 一通 (二七九)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。安太夫心付之儀、加増の件、甲州婚礼前金子参候儀

一四 書状

享保三年二十五日
折紙 一通 (二八〇の一)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。江戸発大坂着の報知

一五 書状

享保三年卯月十六日
折紙 一通 (二八〇の二)

伊勢守(花押)と吉田式部宛。到来物等に付

一四 書状

享保三年五月朔日
折紙 一通 (二八〇の三)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。長崎表より帰福の報知外

一四 書状

享保三年五月五日
折紙 一通 (二八一の一)

伊勢守長清と吉田式部宛。渡辺外記殿の接待に付、唐船打払之次第小倉秋之諸士驚人

一四 書状

享保三年五月五日
折紙 一通 (二八一の二)

伊勢守長清と吉田式部宛。下関素麵の礼

一四 書状

享保三年五月十九日
折紙 一通 (二八二の一)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。渡辺外記殿へ飯塚にて面会、石火矢打之儀、美作間違之挨拶致候件外

一五 書状

享保三年五月二十八日
折紙 一通 (二八二の二)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。安太夫(永々在江戸)暫休息ニ罷帰候外

一五 書状

享保三年六月二十三日
折紙 一通 (二八三の一)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。暑中見舞

一五 書状

享保三年六月二十六日
折紙 一通 (二八三の二)

伊勢守長清と吉田式部宛。船中供の件、江戸と持参候越後縮一端送候外

一五 書状

享保三年七月八日
折紙 一通 (二八四の一)

伊勢守長清と吉田式部宛。暑中見舞状

一五 書状

享保三年七月二十三日
折紙 一通 (二八四の二)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。長崎行の報知外

一五 書状

享保三年七月二十八日
折紙 一通 (二八五)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。阿蘭陀船入津延引の件、地嶋沖之唐船打払の件、安太夫死去の件

一五 書状

享保三年十月十九日
卷紙 一通 (二八六)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。病後報知 甲州日程報知

一五 書状

享保三年閏十月二十五日
卷紙 一通 (二八七)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。又助葉問合せ、獵の報告外

一五 書狀

享保三年閏十月二十八日

折紙 一通 (二八八の二)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。礼状、唐船芦屋表へ相見候に付

一六 書狀

享保三年十一月十七日

折紙 一通 (二八八の二)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。定性十七回忌

一七 書狀

享保三年十一月二十三日

折紙 一通 (二九〇の二)

伊勢守長清と吉田式部宛。吉田下屋敷煩焼に付

一八 書狀

享保三年十二月七日

折紙 一通 (二九〇の二)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。別而事多江戸と申来候金銀之儀ニ付苦勞存候

一九 書狀

享保三年十二月十五日

折紙 一通 (二九〇の三)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。礼状

二〇 書狀

享保三年極月二十三日

巻紙 一通 (二八九)

伊勢守長清と吉田式部宛。江戸にて火消人不調法ニ付江戸の批判悪ク候件

二一 書狀

享保四年正月五日、正月十一日

折紙 二通 (二九一)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。年賀、進物の礼

二二 書狀

享保四年二月十三日

折紙 一通 (二九二)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。渡辺外記と出会の事。寛殿へ去年以来唐船打払之儀申達候由外

二六 書狀

享保四年三月十九日

折紙 一通 (二九三の二)

伊勢守長清と吉田式部・黒田美作宛。肥前守殿隠居願之儀外

二七 書狀

享保四年卯月十五日、五月四日

折紙 二通 (二九三の二)

伊勢守長清と吉田式部宛。又助病氣見舞外

二八 書狀

享保四年五月二十二日、六月十一日

折紙 三通 (二九四)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。蜜柑の礼、又助快愈祝

二九 書狀

享保四年六月十三日

折紙 一通 (二九五)

伊勢守長清と吉田式部宛。進物

三〇 書狀

享保四年七月二十五日

折紙 一通 (二九六)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。東武へ差越候家老之儀美作と他の家老とは財用之差引大キニ違

三一 書類状

享保四年八月十九日

巻紙 一通 (二九七)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。久野四郎兵衛隠居願之儀外

三二 書狀

享保四年八月二十二日

折紙 一通 (二九八)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。博多下屋敷ニ被植置候葡萄送付の礼

三三 書狀

享保四年十一月十一日

折紙 一通 (二九九)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。参勤発足の際進物の礼

三四 書狀

(三〇〇)

一七五 書狀 (江戸期)十二月十三日 折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。おつち婚禮之儀、斉藤丹下隠居外

一七六 書狀 (江戸期)十一月十五日 折紙 一通

伊勢守長清と吉田式部宛。江戸より参勤御礼相済報告

一七七 書狀 (江戸期)八月十日 折紙 一通

黒 伊勢守長清(花押)と黒田美作・吉田式部宛。駒山助右衛門・官兵衛納戸頭へ申付候件、大岡備前守との出会の件

一七八 書狀 (江戸期)十二月十五日 折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。参府報知

一七九 書狀 (江戸期)八月十八日外 折紙 三通

伊勢守長清と吉田式部宛。於長崎福岡勝之助婚禮相調候間、福田十郎右衛門養父病気の由外

一八〇 書狀 (江戸期)十一月二日、十二月二日 折紙 二通

伊勢守長清と吉田式部宛。松本弥右衛門中老申付候趣承知

一八一 書狀 (江戸期)正月十五日 折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。年始之祝儀の礼

一八二 書狀 (江戸期)三月二十二日 折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。魚・松露の礼

一八三 書狀 (江戸期)十月八日 折紙 一通

一八四 書狀 (江戸期)三月二日 折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。名酒等の礼

一八五 書狀 (江戸期)三月二十一日 折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。炮等の礼

一八六 書狀 (江戸期)四月十六日 折紙 一通

礼状

一八七 書狀 (江戸期) 折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。瓜の礼

一八八 書狀 (江戸期)六月二十四日 折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。暑中見舞の礼

一八九 書狀 (江戸期)六月二十六日 折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。川狩の報知、代替誓紙首尾好済候

一九〇 書狀 (江戸期)七月十二日 卷紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。朝鮮人来朝二付外

一九一 書狀 (江戸期)八月二十八日 切紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。参勤借銀之儀、阿蘭陀船入津無之気毒千万外

一九二 書狀 (江戸期)十月八日 折紙 一通

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。名酒等の礼

一九 書状

(江戸期)十月十三日

伊勢守長清と吉田式部宛。去秋と免戻し村も多く此方領分ハ当年ハ宜敷き方ニ而

折紙 一通

(三二六)

二〇 書状

(江戸期)十月二十六日

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。参勤延引之義外

折紙 一通

(三二七の一)

二一 書状

(江戸期)七月二十六日

参勤延引に付

切紙 一通

(三二七の二)

二二 書状

(江戸期)十一月十七日

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。若松出船の報告

切紙 一通

(三二八)

二三 書状

(江戸期)十一月二十六日

伊勢守長清と吉田式部宛。肥前守隠居願之儀外

巻紙 一通

(三二九)

二四 書状

(江戸期)三月十五日

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。美作参府の件

巻紙 一通

(三三〇)

二五 書状

(江戸期)五月七日

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。平馬と之書状の件外

巻紙 一通

(三三一)

二六 書状

(江戸期)五月廿六日

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。在郷住居など被免置候者共之内捨扶持米

折紙 一通

(三三二)

給与に關して

一九 書状

(江戸期)十二月十七日

伊勢守と吉田七左衛門宛。明晩大隅守御発足の由外

折紙 一通

(三三四)

二〇 長清書状目録

(江戸中期)

一紙 一通

(三四一)

二一 書状

(江戸期)二月二十七日

伊勢守長清(花押)と吉田六郎太夫宛。我等堅固居申候

折紙(包紙入)一通

(三四三)

二二 (仮題)長清公ヨリ治年江賜御書

(江戸期)閏正月三日、正月二十六日

伊勢守長清と吉田七左衛門宛。分地拝領祝儀の礼、婚礼祝儀の礼

折紙(包紙入)二通

(三四五)

二三 書状

(江戸中期)三月一六日

黒 伊勢守長清と黒田美作・黒田鞠負・郡平馬・吉田式部宛。肥前守様子

巻紙 一通

(三六六の一)

二四 書状

(江戸中期)四月七日

伊勢守長清と黒田鞠負・吉田式部宛。肥前守様子

巻紙 一通

(三六六の二)

二五 覚

(江戸中期)七月十一日

伊勢守。肥前守養子に付、長崎御番勤方之義外

巻紙 一通

(三八八)

二六 書状

(江戸期)

伊勢守と式部宛。福山長助参馬術致見物候云々

切紙 一通

(三九〇)

二七 書状

(江戸中期)十二月二十八日

折紙(包紙入)一通

(四一三)

伊勢守長清(花押)と黒田美作・野村太郎兵衛・吉田式部宛。書状の件二付久衛門よび委曲可申入候

三〇 書状

(江戸期)八月十三日

折紙 一通 (四三三)

伊勢守長清と吉田式部宛。於箱崎八幡宮祈禱執行二付

三〇 書状

(江戸期)六月十三日

折紙 一通 (四四一)

伊勢守長清(花押)と吉田式部宛。暑中見舞状

三〇 書状

(江戸期)三月二十五日

切紙 一通 (四四二)

黒 伊勢守長清と黒田美作・黒田靱負・郡平馬・吉田式部宛。肥後守御成行の件

三二 覚

(江戸期)二月二十三日

巻紙(包紙)一通 (三三〇)

高源十兵衛・永嶋平介。長清御跡之義二付

(3) 秋 月

三三 犬満様(長興)御書

(江戸期)三月二十二日

折紙(包紙)一通 (三四六)

犬満とすいあん宛。長政様帰国一書申入候

三三 御捻状

(江戸期)

一紙 一通 (三九二)

黒田甲斐守孝政と右兵部宛。御礼忝存候

三四 書状

(江戸期)卯月十日

折紙 一通 (四一九の二)

黒 甲斐守と吉田六郎太夫宛。公儀へ御指上候一冊手前に写置申度

三五 書状

(江戸期)五月五日

一紙 一通 (四一九の二)

黒 甲斐守(孝政花押)と吉田六郎太夫宛。筑前へ之書状相調進之候

三六 書状

(江戸期)

切紙 一通 (四一九の三)

黒 甲斐守と吉田七左衛門宛。一昨日も御越候へとも不能面談候

三七 書状

(江戸期)極月晦日

折紙 一通 (四一九の四)

黒 甲斐守と吉田六郎太夫宛。元且より判形改可申

三八 書状

(江戸期)六月二十五日

折紙(包紙)一通 (四一〇の二)

黒 甲斐守長興(花押)と黒田市正宛。忠之福岡到着之義

三九 書状

(江戸期)六月二十五日

折紙(包紙)一通 (四一〇の二)

黒 甲斐守長興(花押)と黒田市正宛。福岡へ罷出候儀明後二七日ニ可参候

三〇 書状

(江戸後期)十月十七日

折紙 一通 (三九七)

黒 甲斐守長留と吉田六郎太夫宛。附人之事御評儀被成下度

3 他家関係

一 秀吉感状写

(天正十四年十二月二十日)

折紙 一通 (四一四)

毛利右馬頭・吉川監物・小早川左衛門大夫宛。今度九盡大忠勤大將下々言上之品々重而感状可被下付立

二 豊後大友家中着到写

(四七四)

(天正八年十一月十三日)

卷紙 一通

三 長政公より吉川江御取替御誓紙写

(三九二)

(慶長五年九月二十九日)

卷紙 一通

黒田甲斐守長政より羽柴藏人宛外

四 吉川左京書状

(三二八)

(江戸期)九月朔日

折紙 一通

吉川左京より吉田竹翁宛。又助家督相続の祝

五 藤堂大学殿御家中御仕置覚書

(四一)

(江戸中期)

一紙(包紙)一通

俵約関係

六 黒田平左衛門書状

(三二九)

(江戸期)正月十六日

長綴(包紙)一綴

黒田平左衛門より吉田六郎太夫宛。毛利宮内より万千代様と毛利息女の縁談申

入の件

七 書状

(四〇三)

(江戸期)五月十八日

折紙(包紙)一通

吉田六郎太夫より鎌田八左衛門・斉藤忠左衛門宛。秋家老衆より被届候御状に付

(毛利家との縁組)

八 書状

(三三四)

(江戸期)四月九日

切紙(包紙)一通

毛利市正より吉田七左衛門宛。大膳大夫殿より使者目録之通進入云々

4 家譜・系図

一 御追号記

(江戸期)

小横帳 一冊

(九)

公義・御當家・秋月・直方

二 吉田家傳録

(二)

(江戸期)

書冊 三〇冊

三 吉田統家傳録

(二)

(江戸期)

書冊 一四冊

四 甲冑紋章図絵

(二)

(江戸期)

卷子 一卷

五 此君居秘録一〜七

(二)

(享保六年〜元文三年)

書冊 一冊

一〜六治年書、七高成書

六 子孫訓戒 始終

(三)

享保七年葉月

書冊 一冊

節山竹翁六十三歳于此君居書

七 大友系図

(九七)

(江戸末期)

卷紙 一卷

八 覚

(九六)

(江戸中期)

卷紙 一卷

吉田家由緒

九 吉川系図

(一〇七)

(延宝三年写)

卷紙 一卷

一〇 藤家高木氏系図

(一〇六)

(江戸中期)

卷紙 一卷

肥前高木作右衛門

二 (仮題) 毛利氏系譜

(五四八)

享保八年十一月

卷紙 一通

三 高来勘兵衛方差越い書付

(江戸期)

高木家系譜

切紙(包紙入)一通 (三三七)

5 藩 政

(1) 藩 政

一定

寛永三年十二月二十二日

一紙 一通 (四〇〇)

忠之(花押)。忠之公御獵場定書

二覚

(寛文二年)正月十五日

卷紙 一通 (二〇〇)

一、御藏入分御免奉行衆云々外四ヶ条

三 光之公方吉田無益江御尋ニ依テ書付差上候写

(延宝八年)九月十日

(二〇二) 一軸

吉田久太夫。栗山大膳一件

四 御覽ニ入候書付

享保十二年九月

切紙 三通 (七五)

御家中儉約之儀、諸士を被召仕候儀、町方郡方浦方へ可申付条々

五 被仰渡書付三通ニ相添夫々へ相渡覚

享保十五年八月

折紙 一通 (八七)

儉約法度

六 長野久之進君命を請而觀海亭ニ来御内意物語仕候次第書附

享保十六年七月二十八日

卷紙 一通 (四〇〇)

御政道之儀

吉田家文書

七 書状

享保十六年十一月六日

卷紙 一通 (五一七)

財政に関して

八 書状

享保十六年

折紙 一通 (五三三)

江戸御屋敷類焼ニ付町人共御用銀筋指出候、役儀の件

九 口上覚

享保十八年六月

切紙 一通 (五四六の二)

藩財政と家中救済に関して

一〇 覚

(享保十八年)十二月十四日

卷紙 一通 (五四六の二)

財政方一件

一一 申上覚

(享保十八年)丑二月十日

切紙 一通 (五四六の三)

飢人御救の件外

一二 御門出入之改控

享保十九年十一月

卷紙(包紙入)一通 (六三)

一三 書状

宝曆八年

切紙 一通 (五三二)

公米川下シの儀、上座川筋の儀

一四 公儀御代替ニ付御判物御改有之御判物持参之御使者被仰付日記

宝曆十年八月二十六日〜十月二十日

小横綴 一綴 (五六一)

一五 勤要慎覚書

明和七・九年

書冊 一冊 (二一九)

侍従様郡々御巡見記録

一六 覚

(五三八)

明和九年四月

切紙 一通

黒田久兵衛。桜田御屋敷御作事普請に關して

一七定

嘉永六年八月

切紙 二通

松田市蔵。記録方被仰付調子方之儀

一六 概要誌

(江戸後期)

小横帳 一冊

御輔佐之次第之事、御国境村々之事外二十四ヶ条

一五定

(江戸期)

巻紙 一通

自然近火之節

一四 番の次第

(江戸後期)

切紙 一通

一三 覚

(江戸中期)

巻紙 一通

従是先御物入ヶ条

一三 書状

(江戸期)

(五四四)

当役初御財用大坂掛合

一 書状草案

(江戸期)七月二十三日

(五四四の一) 書綴 一綴

吉田六郎太夫と伊丹九郎左衛門宛。御勝手方本へ御用相勤、大坂にての借財の件

2 書状

(江戸期)七月二十四日

(五四四の二) 書綴 一綴

家老中へ鴻池善右衛門・鴻江善八宛

3 書状

(江戸期)七月二十四日

(五四四の四) 書綴 一綴

吉田六郎太夫と伊丹九郎左衛門宛。鴻池方へ遣候書状之添状

4 書状

(江戸期)九月朔日

(五四四の五) 書綴 一綴

家老中へ市左衛門宛

5 書状

(江戸期)九月四日

(五四四の六) 書綴 一綴

伊丹九郎左衛門宛。鴻池への銀談一件

6 書状

(江戸期)十一月十九日

(五四四の七) 一紙 一通

伊丹九郎左衛門宛。浅草米代相調

7 書状

(江戸期)八月十一日

(五四四の八) 巻紙 一通

伊丹九郎左衛門と六郎太夫宛。大坂銀談に關して

三年々財用元へ蔵方元へ勘定聞届奥書案文

(江戸中期)

(二四九) 切紙 一通

二 四覚書

(江戸中期)

(二一八) 小横帳 一冊

御用之節取斗之部

一 五(仮題)諸例書抜

(江戸中期)

(九二) 書綴 三綴

諸願仕様并訴訟等之儀、養子之事

三 書状

(江戸期)九月四日

(五一六) 書綴 一綴

鎌田八郎兵衛宛。財政一件

七 於江戸鎌田八郎兵衛方へ御再答草案

(江戸中期)

書綴 一綴 (五一四)

御前様安産御札守指上候儀、財政難の件

六 書状

(江戸期)六月二十二日

切紙 一通 (五一三)

鎌田八郎兵衛昌栄と六郎大夫宛。財政難の訴え

元 書状

(江戸期)卯月二十八日

切紙 一通 (五四一)

九左衛門と七左衛門宛。シヤカタラ等進上、裏文書は財用方等勤方の儀

三 (仮題) 覚

(江戸期)

切紙 二通 (四九八)

記録方心得

三 (仮題) 覚

(江戸期)四月八日夕

切紙 一通 (五〇九)

麻布普請之儀外

三 (仮題) 覚

(江戸中期)

切紙 一通 (五〇四)

御茶屋修覆、茶道家業相統方の件、傍示奉行の件、田方検見の者外

三 高成公御存念書

(江戸期)十一月十三日

切紙 一通 (四七五)

雲遅と浦上彦兵衛・櫛橋又之進宛。御判物運搬の帰路経費に付

三 書状

(江戸期)閏三月四日

切紙 一通 (四二〇の一)

浦上彦兵衛・郡平馬と吉田弾番宛。細々之御書付類ハ不及返上

三 書状

(江戸期)閏三月三日

切紙 一通 (四二〇の二)

三 書状

浦上彦兵衛・郡平馬と吉田弾番宛。御上と相渡シ被成候御定書可指出 (三二七)

折紙(包紙)入一通

大音六左衛門・郡平馬・黒田鞠負と吉田式部宛。大殿様(宣政)隠居殿様御家督御相統ニ付連名御書遣候

三 (仮題) 覚

(江戸中期)

巻紙 一通 (五八六)

勤方覚

三 (仮題) 家老中御用筋取捌方

(江戸中期)

書綴 一綴 (九一)

元 書状

(江戸中期)七月

切紙 一通 (五三九)

勤め方の儀に関して

四 書状

(江戸中期)

切紙 一通 (五三四)

財政方の儀に付

四 覚

(江戸期)

切紙 一通 (六〇九)

藩財政への具進(直年の頃)

三 (仮題) 覚

(江戸中期)八月四日

書綴 二綴 (五五七)

御国政折合申御安心被遊候云々

三 書状

(江戸中期)

切紙 一通 (五四三)

藩財政並びに勤方の儀

四 書状

(五四四の三)

(江戸期)七月二十四日

書綴 一綴

六郎太夫と伊丹九郎左衛門宛。大坂銀談一件

翌(仮題)覚

(五四二)

(江戸期)

切紙 一通

国政に関して

哭書状

(五四〇)

(江戸中期)

折紙 一通

藩政に関して

哭覚

(五三六)

(江戸中期)

折紙 一通

藩政・財政に関して

哭(仮題)覚

(四六一)

(江戸中期)

切紙 一通

保年。藩政への意見書

哭 七月十六日侍従様江差上候書付之控

(三六五)

(江戸中期)

巻紙 二通

国政執斗一件

吾(仮題)覚

(三五二)

(江戸中期)

巻紙 一通

政事、財政等に付

吾 口上之次第

(二二二)

(江戸期)

長綴 一綴

付札の事、勤方心得、御勝手向之詮儀

吾(仮題)家老中勤向之覚

(五四)

(江戸中期)

長綴 一綴

吾(仮題)御勝手向御詮儀ニ付申上覚

(八〇)

(江戸中期)

巻紙 一通

吾 家老中勤方心得の覚

(七七)

(江戸中期)

巻紙 一通

吾(仮題)家老中御用取捌方之儀ニ付申上覚

(七四)

(江戸中期)

一紙 一通

吾(仮題)彦左衛門久兵衛儀ニ付申上覚

(六八)

(江戸後期)

巻紙 一通

老年に付勤方の件

吾 申上口上之覚

(五九)

(江戸中期)卯月

切紙 一通

御国政御財用方之儀、平馬儀勤方の儀

吾(仮題)郡方之儀ニ付申上覚

(五八)

(江戸中期)

切紙 一通

百姓中より寸志納米の事

吾 覚

(五七)

(江戸中期)十二月

切紙(包紙入)一通

吉田六郎大夫。儉約仕法ニ付存念

吾(仮題)御儉約御仕法に付申上候覚

(五三)

(江戸中期)十一月二十日

巻紙 一通

吾 憚ながら申上覚

(五三〇)

(江戸期)八月

巻紙 一通

吉田六郎大夫。勤め方の儀

吾 大音三郎右衛門江達書附

(五三二)

(江戸期)七月、八月

巻紙 一通

勤めの儀

吾(仮題)覚

(五七五)

(江戸中期)

榎橋流儀への評を請う

切紙 一通

六 函口達の覚

(江戸期)五月

吉田久兵衛ら。竹中専右衛門自害一件。付、覚(筑前守詠歌之儀、国絵図調の事外個条書)

切紙(袋入)二通

七 出獵の節定

(江戸中期)

(五七九)

八 (仮題) 存念書草稿断簡

(江戸中期)

切紙 一通

連年不勝手ニ付中老中ニモ勤休被相立被置候ニ付

(2) 役 職

九 光之公御代初家老中誓紙前書之草案

明暦二年三月二十三日

一紙(包紙入)一通

黒田三左衛門・小河平左衛門外六名

(三二六)

一〇 起請文前書案

1 起請文前書写

宝永五年閏正月

一紙(包紙入)二通

吉田七左衛門治年家老職依被命誓紙奉進之大畧

(四六の二)

二 起請文前書案

正徳四年七月二十八日

一紙(包紙入)三通

治年誓紙ノ節起請ノ写、治年起請文前書草稿

(四六の二)

三 栄年職分被命誓旨捧進案捧進ノ大畧

享保十二年八月

一紙(包紙入)二通

四 高年当職被命候節奉捧誓旨之案

(四六の四)

吉田家文書

寛延三年七月

起請文草案

一紙 二通

五 起請文前書

延享二年十月

一紙(包紙入)二通

吉田高年家督直ニ職分被命先例依テ誓旨捧進之大抵

(四六の五)

六 高直誓旨捧進案、起請文前書之事

宝暦十二年閏四月四日

一紙 二通

吉田式部高直ら。誓旨案

(四六の六)

七 高直当職被命候節奉捧誓旨之案

明和九年七月二十八日

一紙(包紙入)二通

吉田弾番高直

(四六の七)

八 充書附控

享保十八年二月二日

切紙 三通

目安書附ニ相添指上候書附ノ控

(五三七)

九 乍恐奉願口上之覚并添書

(江戸期)八月

切紙 二通

吉田六郎大夫ら黒田美作外四名宛。当役御免願

(五四五の二)

一〇 覚

(江戸期)

切紙 一通

六郎大夫・七左衛門宛。隠居願候ニ付

(五四五の二)

一一 申上覚

(江戸期)八月十一日

切紙 一通

役儀被仰付ニ付

(五四五の三)

一二 書状

享保十八年八月

切紙 一通

役儀勤め方に付

(五四五の四)

四 乍恐奉願口上之覚

(江戸期)十二月二十四日

(五四五の五)

吉田六郎太夫栄年ら黒田美作外四名宛。当役御免願

一紙 一通

五 當役御断之記

享保十八年

(五四五の六)

書綴 一綴

六 (仮題)六郎太夫の役儀進退に関する書付

(寛保二)三年

(五四五の七)

書綴 一綴

七 黒田美作江被相渡書附之写

元文三年六月八日

(五一〇)

切紙 一通

六郎大夫当職勤候に付心構え

八 美作殿江相渡書付控

延享元年十月

(五一二)

切紙 五通

役儀御断可申上候

九 吉田高年家督相統直ニ職分被命記

延享二年十月四日

(七二)

折紙 三通

一〇 奉願口上之覚

(江戸期)三月十二日

(一四八)

一紙 二通

吉田彈番ら黒田源左衛門宛。職分御免願

一一 自觀様御再筋書渡御書留御書付

宝曆十一年外

(一五四)

切紙 二通

柳ヶ原立山被返下外

一二 家老中連判誓旨前書写

明和二年三月

(四五六)

一紙(包紙入)一通

家老中勤方之儀ニ付連判之誓紙指上候右誓紙前書之写并添書

一三 家老中連名指上候誓旨前書ノ写

明和二年三月四月

(三四四)

卷紙 一通

野村太郎兵衛裕一外九名

一四 (仮題)筋違之儀ニ付退隠被仰付候書付

(安永二年)

(八二)

卷紙 一通

吉田彈番・齊藤全・黒田自觀宛

一五 玄雄様御遺書拔書

文化十年

(四八〇)

切紙(包紙入)一通

經年江職分被仰付候件

一六 雲違様御當職御断御願書書付

1 奉願口上之覚

(江戸期)

(五二〇)~(五二七)

(五二〇)

卷紙 一通

黒田源左衛門外四名宛

2 奉願口上之覚

(江戸期)閏六月

(五二一)

卷紙 二通

3 奉願口上之覚

(江戸期)三月

(五二二)

一紙 二通

黒田久兵衛ら黒田源左衛門外六名宛

4 奉願口上之覚

明和七年十一月十八日

(五二三)

一紙 二通

吉田久兵衛ら黒田源左衛門外六名宛

5 奉願口上之覚

(明和九年)六月二十七日

(五二四)

一紙 二通

黒田久兵衛ら黒田源左衛門外五名宛

6 口上之覚

(江戸期)十月

(五二六)

一紙一通、長綴一綴

吉田久兵衛ら黒田源左衛門外五名宛

7 奉願口上之覚

(五二五)

(江戸期)四月

黒田源左衛門外六名宛

一紙 一通

8 覚

(江戸期)

六七 起請文案紙

(江戸中期)

折紙 一通

(五二七)

一紙 一通

吉田式部・吉田久兵衛と大音三郎右衛門宛。御用筋言上之外ハ一切口外仕間敷

敷

六八 奉願口上之覚

(江戸中期)

卷紙 一通

(八一)

退隱願

六九 竹翁様□□御書付・美作様御書付・覚

(江戸中期)

切紙 五通

(二六四)

六郎太夫存念書付の事

七〇 高濱十兵衛書附

(江戸期)正月

切紙(包紙入)一通

(三三三)

六郎太夫御政事方御免願の件

七一 吉田式部江被下御書

(江戸期)十一月二日

折紙(包紙入)一通

(三三八)

官兵衛・長好と吉田式部宛。勤方断之段聞届云々

七二 覚

申四月

卷紙 一通

(三六八)

吉田久兵衛。退役願の件

七三 書状

(江戸期)二月十九日

切紙(包紙入)一通

(四二五の一)

郡平馬・毛利内記と吉田式部宛。弾番と改名候様

吉田家文書

七四 (仮題)覚

(江戸中期)

切紙 一通

(四二五の二)

六郎大夫宛。長崎御用被仰付、且内記跡秋月御用請持をも被仰付

七五 (仮題)覚

(江戸期)

切紙 一通

(四二五の三)

六郎大夫宛。御財用方引切請持被仰付

七六 (仮題)覚

(江戸期)

切紙 一通

(四二五の四)

六郎大夫。長崎御番に付

七七 (仮題)覚

(江戸期)

切紙 一通

(四二五の五)

六郎大夫宛。長崎御番、普請御用掛被仰付に付

七八 (仮題)覚

(江戸期)

切紙 一通

(四二五の六)

六郎大夫宛。怡土郡、中津領との境宜相極候段

七九 書状

(江戸期)

切紙 一通

(四二五の七)

吉田六郎大夫宛。勤方の儀御為宜御欠略仕法相立候様

八〇 (仮題)覚

(江戸中期)

折紙 一通

(四二五の八)

吉田安吉宛。親子対面御免

八一 (仮題)覚

(江戸期)

切紙 一通

(四二五の九)

六郎大夫。御欠略本被仰付

八二 (仮題)覚

(江戸期)

切紙 一通

(四二五の一〇)

御要書并船方御用被仰付

一〇三 (仮題) 覚

(江戸期)

六郎太夫宛。秋月御用請持云々

(四二五の二一)
切紙 一通

一〇四 書状

(江戸期)二月十九日

毛利内記方吉田式部宛。弾番と名改候様

(四二五の二二)
切紙(包紙入)一通

一〇五 書状

(江戸期)

内記・外記・六郎太夫宛。御欠略本被仰付

(四二五の二三)
切紙 一通

一〇六 口上之覚

(江戸中期)十一月二十五日

吉田式部方野村太郎兵衛・郡平馬外宛。役職御免願

(四三一の一)
一紙 一通

一〇七 直年様書状并覚書

1 書状

(江戸期)

久兵衛彈番御財用ニかゝり候儀被仰付

(四四四の一)
切紙 一通

2 書状

(江戸期)

職分之者云々

(四四四の二)
切紙 一通

一〇八 口上之覚

(江戸中期)

当職御免願一件

(五〇六)
長綴 一綴

一〇九 久兵衛御退隱の御願被差出置至相濟候迄の大抵

(江戸中期)

付、覚(七月)、藩政への具申

(四九六)
切紙(包紙入)二通

二〇 書状

(江戸期)

当職を勤めるにあたっての心構え

(五一二)
折紙 一通

二一 (仮題) 覚

(江戸中期)

安次郎・雲遲。私処分一件

(五〇七)
巻紙 一通

(3) 日誌

二二 日記

文政二、天保六・十一年

(四四〇)
断簡

二三 御参勤兩御道中日記

文政五年秋、文政六年
参勤、帰路

(二九〇)
長帳(小) 一冊

二四 勤用日記 江戸

天保十一年六月五日〜十五日

(二六九)
長帳(小) 一冊

二五 日記

(江戸期)子六月十六日〜二十七日

(二七〇)
長帳(小) 一冊

二六 日記

(江戸期)子七月十六日〜八月三日

(二七一)
長帳(小) 一冊

二七 日記

(江戸期)子八月四日〜晦日

(二七二)
長帳(小) 一冊

二八 日記

(江戸期)子九月朔日〜二十日

(二七三)
長帳 一冊

二九 日記

(江戸期)子九月二十一日〜十月十日

(二七四)
長帳 一冊

三〇 江戸日記

(二七五)

(江戸期)子十月十一日〜十一月十二日

二三 江戸日記

天保十一年十一月十三日

長帳 一冊 (二七六)

二三 江戸日記

天保十二年正月元旦〜閏正月十日

長帳 一冊 (二七七)

二三 江戸日記

天保十二年閏正月十一日

長帳 一冊 (二七八)

二三 日記

天保十二年三月十三日

長帳 一冊 (二七九)

二三 日記

天保十二年八月六日

長帳 一冊 (二八〇)

二三 仮日記

(江戸期)五十月十一日〜十月二十四日まで

長帳 一冊 (二〇二)

二三 日記

天保十二年十一月晦日

長帳 一冊 (二八二)

二三 仮日記

丑十一月二十二日〜十二月十八日

長帳(小) 一冊 (二〇三)

二三 日記

天保、弘化、嘉永

小横帳 一綴 (四三六)

二三 山家御出會之記

天保十二年八月晦日

長帳(小) 一冊 (二九一)

二三 山家御出會之記

天保十三年七月晦日

長帳(小) 一冊 (二九二)

二三 (仮題) 獵日記

天保十三年正月二十五日

長綴(小) 一綴 (二九三)

二三 日記

天保十三年正月朔日〜正月三日

二三 仮日記

(江戸期)寅九月朔日〜九月十三日

長帳(小) 一冊 (二〇四)

二三 日誌

一〜三 嘉永五年

長帳(小) 三冊 (五五八)

二三 日記

嘉永六年正月

長帳 一冊 (二八三)

二三 (仮題) 日記

(嘉永六年)丑五月六日

長綴(小) 一綴 (二八八)

二三 (仮題) 日記

嘉永六年五月二十日〜二十八日

長帳(小) 一冊 (二八七)

二三 日録

嘉永六年五月二十五日〜六月十一日

長帳 一冊 (二八四)

二三 日録

嘉永六年七月朔日〜八月三日

長帳 一冊 (二八五)

二三 日録

嘉永六年十月〜十月十四日

長帳 一冊 (二八六)

二三 東海道日録

嘉永六年十月十三日〜十一月十七日

長帳 一冊 (二八九)

二三 江戸要覽

嘉永六年十月八日〜十二日、安政二年正月十日〜十一日

長帳 一冊 (二〇〇)

二三 日録

嘉永七年春夏秋冬

長帳 四冊 (五五九)

二三 道中日記

安政二年正月十三日〜二月十日

長帳(小) 一冊 (二〇一)

二三 日記

江戸

長帳(小) 一冊 (二八九)

安政二年正月朔日～六日

一四 (仮題) 日記

(江戸期) 三月二十一日迄

一三 (仮題) 日記

(江戸期) 四月朔日～四月十三日

一二 (仮題) 日記

(江戸期) 四月十六日～四月晦日

一一 (仮題) 日記

(江戸期) 五月六日

一〇 (仮題) 日記

(江戸期) 五月十三日～五月十五日

〇九 (仮題) 日記

(江戸期) 五月十七日

〇八 (仮題) 日記

(江戸期) 五月二十日～二十四日

〇七 諸事覚

(江戸期) 五月二十六日～六月四日

〇六 宰府御参詣之御次第

(江戸期)

〇五 日記

(江戸後期) 丑九月

〇四 仮日記

(江戸後期)

〇三 日記

(江戸中期) 正月八・九日

長崎惣助方送來候唐本書上外

長帳 一冊

(二〇六)

長綴(小) 一綴

(二〇七)

長綴(小) 一綴

(二〇八)

長綴(小) 一綴

(二〇九)

長綴(小) 一綴

(二一〇)

長綴(小) 一綴

(二一一)

長綴(小) 一綴

(二一二)

長綴(小) 一綴

(二一三)

長帳(小) 一冊

(二一四)

長帳 一冊

(五六〇)

小横帳 一冊

(五六一)

小横帳 七冊

(六〇二)

断簡 一枚

一五 (仮題) 黒田藩主出獵之日記

(江戸中期)

長綴 一綴

(八三)

6 黒田家臣・又家来

(1) 知行宛行

一 黒田長政知行宛行状写

(江戸期) 正月三十日

折紙 一通

(九四)

從長政公吉田喜八郎三給、周泉寺村三百石

二 吉田家知行関係書類

1 長政知行宛行状

慶長六年三月十七日

折紙(包紙入三通)

(九八の一)

吉田又介宛。知行目録

2 長政知行宛行状

慶長七年十二月二十三日

折紙(包紙入三通)

(九八の二)

吉田又介・吉田六郎太夫宛。早良郡之内二千石 目録共

3 黒田忠之知行宛行状

元和九年閏八月二十三日

折紙(包紙入二通)

(九八の三)

吉田七左衛門宛。目録共

4 黒田高政知行宛行状

寛永十五年十一月五日

折紙(包紙入二通)

(九八の四)

吉田右馬大輔宛。目録共

5 黒田忠之知行宛行状

寛永十九年二月二十日

折紙・一紙二通

(九八の五)

吉田右馬大夫宛。目録共

6 吉田六郎太夫替知村付之覺 (九八の六)

(承応元年)辰十二月十九日 一紙 一通

7 黒田光之知行宛行状 (九八の七)

明曆二年三月二十三日 折紙・一紙二通

吉田六郎太夫宛。目錄共

8 黒田光之知行宛行状 (九八の八)

延宝五年十二月十一日 折紙・一紙二通

吉田七左衛門宛。知行目錄共

9 黒田光之替知宛行状 (九八の九)

貞享四年八月二十三日 折紙(包紙入一通、一紙(包紙入二通

吉田七左衛門宛。替地目錄、貴殿知行替地高目錄、貞享四年八月十三日尾崎

三太夫・宮内十郎左衛門と吉田七左衛門宛)

10 黒田綱政替地宛行状 (九八の一〇)

宝永四年十一月十一日 折紙(包紙入一通・一紙(包紙入二通

吉田七左衛門宛。貴殿拝領知高目錄(寛永四年十一月十一日嶋村九太夫・母

11 黒田繼高知行宛行状 (九八の一)

元文二年五月五日 折紙(包紙入一通・一紙(包紙入二通

吉田六郎太夫宛。貴殿先知拝領高目錄(元文二年五月十三日松山利左衛門・

沢木藤右衛門外三名と吉田六郎太夫宛)

12 黒田繼高知行宛行状 (九八の一二)

宝曆三年二月二十一日 折紙(包紙入一通・一紙(包紙入三通

吉田安次郎宛。貴殿拝領知高目錄・貴殿拝知役高證拠事(宝曆三年四月山中

甚六・山岡藤右エ門外と、知行目錄

13 黒田繼高知行宛行状(加増) (九八の一三)

宝曆四年五月十九日 折紙一通・一紙三通

吉田安次郎宛。高目錄、役高証拠(山中甚六・時枝長太夫外と)

14 黒田繼高知行宛行状 (九八の一四)

宝曆十二年四月七日 折紙(包紙入二通、一紙(包紙入二通

吉田式部宛。御拝知高目錄、御役高證拠(宝曆十二年五月二十一日大森善左

衛門外と)

15 黒田繼高知行宛行状 (九八の一五)

宝曆十三年八月二十二日 折紙(包紙入一通・一紙(包紙入三通

吉田式部宛。知行目錄、御拝知高目錄、御役高證拠(宝曆十三年九月十九日

原吉蔵・皆田藤助外と)

16 黒田治之知行宛行状 (九八の一六)

明和九年七月二十七日 折紙(包紙入一通・一紙(包紙入三通

黒田(吉田)久兵衛宛。知行目錄、高目錄、納役證拠、御拝知役高証拠の事(明

和九年八月粟生十右衛門外と)

三 御判物写 (一一六)

(享保十七年) 書冊 一冊

家中御判物帳出来二付銘々より本紙と写と御館ニ指出其時之写帳控也

四 御知行拝領仕候代々折紙并目錄写 (一二二)

(天正十六年)延享五年) 一紙 一通

五 目銀(録)覚 (四八三)

元和七年六月 一紙 一枚

吉田七左衛門(重成)と管和泉宛。与力知行書付

六 江戸ニ詰候供之者苦身之定(写) (六四)

(慶長二十年三月七日) 一紙(包紙入一通

無足津田甚右衛門所持

七 御知行定為替米大豆并御足大豆村割御證文 (六二)

安政五年三月 一紙(包紙入一通

助役 田新五左衛門・山田東作外 吉田安吉宛。宗像郡の内

八 先知可返賜記

(江戸中期)

書冊 一冊

(一一四)

(2) 家臣・又家来

九 (仮題) 浦卜三郎兵衛方へ於芳参候記録

享保十二年

折紙 一通

(七〇)

一〇 覚

享保十三年八月二十二日外

折紙(包紙入)二通

(四六五)

園山良右衛門宛。役儀に付、養子の件

二 留守居へ遣入書状下書

戌十月十五日、延享元年九月外

切紙 三通

(一一三)

三 御判物御記載之記

嘉永七年

長帳 一冊

(四三七)

盛年公御事日記之内

三 定

(江戸期)

切紙 二通

(四九七)

家来米大豆渡方の件、家来新知与候節。付、拜知證拠

四 吉田登年附属分限帳

明治三年十一月

長帳 一冊

(二五〇の一)

五 吉田家臣分限帳

明治三年

折紙(包紙入)二通外

(二五〇の二)

六 留守制度

(江戸中期)

長綴 一綴

(一一二〇)

留守中心得

七 留守小坊主勤方

(五九四)

八 役料定

(江戸中期) 酉四月

切紙 一通

(五八八)

(江戸中期)

切紙 一通

九 書状

留守居役外

切紙 一通

(五六九)

(江戸期) 閏五月二十二日

中田小兵衛外二名。留守居役之勤御尋ねに付

一〇 覚

(江戸中期)

紙綴 一綴

(五六七)

家来中一統之風俗に付意見書、吉田の家来に對して

三 (仮題) 覚

(江戸期)

切紙 一通

(五〇八)

家中困窮に付銀切手利米御捨并除ヶ米被仰付候件

三 御改正御達後二相達候控

(江戸中期)

長綴 一綴

(五〇二)

家来中宛。元和之御規制ニ被本風俗質素ニ立戻り儉約相整

三 覚

(江戸中期)

長綴 一綴

(五〇三)

近年惣御家来之風俗不直

四 (竹田) 伊久八ノ件

(江戸後期)

切紙(包紙入)二通

(四七〇)

五 竹翁様江吉田齊ヨリ書状

(江戸期) 十一月二日

卷紙(包紙入)一通

(三三六)

繁沢弥右衛門儀甲斐守殿不応心底儀候ニ付暇置候由

六 奉棒起請文之事

(江戸期)

切紙 一通

(六〇五)

家事仕置之為会席に際しての心構え

七 記録留守居中

(江戸末期)

書冊 一冊

(一一二)

都而御用之節執斗之部、古事平体ニ至御用之節取斗之部、諸願出シ方之部外
六 諸士困窮不勝手之儀ニ付申上覚 (五五)

(江戸後期)

巻紙 一通

元 (仮題)覚

(江戸中期)午八月

切紙(包紙入)二通

園山文左衛門宛。瓦町御財用元ノ役被指免候

三 乍恐奉願口上之覚

(江戸中期)

切紙 一通

(四六四の二)

病氣不相勝ニ付拝祿御理リ

三 (仮題)御新宅御女中方之儀ニ付申上覚

(江戸中期)五月

切紙 二通

(八五)

吉田七左衛門

三 (仮題)御教諭

(江戸中期)

切紙 三通

(一六五)

竹翁治年・栄年。留守居共より指出し候書付又助うせ候ニ付竹翁存念之趣

(近年風俗不直)

三 歎願書

明治十年

一紙(包紙入)一通

(五六六)

林元武・大音素雪・吉田一畝方黒田一美宛。早川勇儀御救願

三 (仮題)覚

(江戸期)

切紙 一通

(六一七)

利賢の子の行方

三 調内覚書

(一一七)

吉田家文書

(江戸期)未七月

生駒調内

三 生駒調内覚書

享保十三年四月

巻紙 一通

(一一五)

由緒

7 武備・武術

(1) 兵法

一 甲陽軍艦軍法之巻

正保三年六月

書冊 一冊

(二六)

久米河式部少補親昌方吉田九郎兵衛宛

二 諸鳥打方集書・猪鹿打方集書、諸鳥猪鹿打方図書

(江戸後期)

書冊 三冊

(二七)

三 武田流金貝太鞍之巻

元禄四年三月

折本 一冊

(三三)

吉田眠計子曉利方吉田七左衛門殿宛

四 道雪派射術返伝之由来草稿

(江戸後期)

書冊 一冊

(三六)

五 口上

(江戸期)十二月二十九日

切紙 三通

(一〇三)

二天流兵法の事に関する書類。付、吉田七左衛門方立花弥兵衛宛口上一通、

暗山方種名宛書状一通、吉田七左衛門方樹軒老宛一通

六 二天流兵法 火風空天地之巻及傳授状

明暦二年閏四月十日

巻物五巻・折紙一通

(一〇五)

立花種美と吉田一敏宛。付、傳授状は明治三十年二月二十六日

七 二天流兵法傳授状

正保二年正月、寛政四年

明治三十年立花種美と吉田一敏宛

(二〇四)

切紙 四通

八 書状

(江戸期) 正月二十二日

香西正左衛門と治年宛。武術伝授の件

折紙(包紙入) 一通

(三三二)

(2) 武 具

九 吉田栄年具足初之次第

元禄十一年十一月十一日

一〇 駿州島田武州安定陣刀製作之濫觴

(江戸期)

吉田盛年筆

書冊 一冊

(三五)

長綴 一綴

(七三)

二 覚

(江戸後期) 八月

安部孫太夫。火矢等の手入被為仕度願

切紙 一通

(四九五)

三 相達

嘉永六年正月十七日

御取次中・御伝役中宛。鎗の由来ニ付

切紙 一通

(五八〇)

三 着領具足

(江戸期)

由緒

小横綴 一綴

(五八二)

四 延年公御手日記之内ニ御記置之分書取之

(江戸中期)

御腰物修履詮議

切紙 一通

(五九三)

(3) 備

一 御備立

(江戸期)

付、覚(持道具 慶安元年十月二十五日)、覚(人数書立 江戸前期)、船備書

(四四)

一紙袋入六通

二 大阪御陣之刻黒田家備付

(江戸中期)

慶応三年十二月 武備

(四三)

(包紙入) 一通

三 永代定則写

慶応三年十二月

小横帳 二冊

(四二)

8 土 地

一 仕上ル書物の支

寛文十年正月六日

平尾村庄屋伊兵衛と上田太郎左衛門外宛。立山平尾山に關して。付、六郎

切紙 三通

(二二八)

太夫七左衛門屋敷中のごゑ其方ニ遣申ニ付而證拠の事

二 仕上ル書物の事

貞享四年四月十四日

本木村庄屋重右衛門と吉田六郎太夫内三好勘兵衛宛。六郎太夫立山に公儀

一紙 二通

(二二九)

御炭焼出札立置被成候件。付、宗像郡本木村山の内ニ而吉田七左衛門様御證
拠山の事

三 宗像郡野坂村惣右衛門抱之田畠并彦作永代相伝ニ壳渡申ニ付證拠の事

元禄四年、宝永元年

卷紙 一通

(二三〇)

惣右衛門より沢為兵衛、一沢文内より野坂村長吉宛

四 表粕屋郡久原村鞍手郡脇田村一作開地床買取ひ證文

(一一三)

正徳三年十一月十三日

一紙(包紙入)一通

八田貞平より吉田又助宛

五 表糟屋郡久原村の内柳ヶ原八田仁入様御仕立老作田島竿入御改帳

(一一三)

正徳五年六月二十四日

書冊 一冊

六 鞍手郡脇田村之内柚木老作田畑定反別書出

(一一三)

正徳五年十月

一紙(包紙)一通

小林与三太夫より式部内永井孫之進外宛。吉田又助買取に付

七 表粕屋郡久原村之内柳ヶ原老作田畑定石反別書出

(一一四)

正徳五年十月

一紙(包紙入)一通

浜太郎左衛門外より式部内長井孫之進外宛。式部買取に付

八 鞍手郡脇田村之内八田仁入様御仕立老作柚木田島竿入御改帳 (一一五)

書冊 一冊

正徳五年六月

脇田村庄屋善介外より小林与三太夫外宛

九 簀子町下屋敷證文

1 簀子町九郎左衛門家屋鋪売券書物の事

(一二四の二)

享保二年九月

巻紙 一通

売主坂田九郎左衛門従弟吉田式部内坂田久之進、買主大工町山口源八

2 簀子町長光院家屋鋪券帳直シ申付書物の事

(一二四の二)

享保二年九月

巻紙 一通

吉田式部内坂田角大夫外より白石正兵衛・小南甚三郎宛

3 家屋鋪買券銀請取申事

(一二四の三)

享保二年九月二十一日

一紙 一通

簀子町年寄与四兵衛より大工町山口源八宛

4 御名代ニ立申ニ付仕上の証拠の事

(一二四の四)

享保二年九月二十一日

一紙 一通

大工町米屋山口源八より吉田式部内上田四郎右衛門外宛。式部下屋敷福岡簀子町二而

子町二而

5 (仮題)証文書上

(一二四の五)

(享保)寛保

切紙 一通

6 簀子町年寄与四兵衛惣代利左衛門申上ル口上覚

(一二四の六)

(享保)二年西十二月十三日

巻紙 一通

与四兵衛より、式部様下屋敷ニ付

7 覚

(一二四の七)

(江戸期)午八月

一紙 一通

簀子町年寄善次郎より

8 證拠の事

(一二四の八)

寛保二年七月

一紙 一通

四宮甚太夫・隅田清作より吉田六郎太夫宛。簀子町下屋敷海手に築出の儀

9 御下屋敷御名代證文

(一二四の九)

延享三年八月二十七日

一紙(包紙)一通

石橋次四郎より三芳喜太夫外宛

10 浜屋敷新築出地主銀

(一二四の一〇)

安永七年七月

一紙(切紙)一通

石橋次右衛門

11 簀子町雑屋善右衛門家屋鋪売証文

(一二四の一)

寛政五年六月

一紙(包紙入)一通

雑屋善右衛門より藤崎四郎右衛門宛

12 普請奉行書状

(一二四の二)

(江戸期)

切紙(包紙入)一通

母里武兵衛・大音治右衛門方

二〇 御拝領志作證文

享保十四年九月

味岡団右衛門・河崎伝次郎方。久原・脇田村

(一三六)
卷紙(包紙入)一通

二 警固證文

1 警固證文

元文三年十二月十六日

栗生十右衛門・沢木藤右衛門方吉田六郎太夫宛。那珂郡薬院村下警固村屋敷の事

(一三七の二)
卷紙(包紙入)一通

2 臥雲峯新古図

明治十八年九月二十八日

下警固村屋敷図二枚。那珂郡下警固村家敷ニ在ル石碑銘写外

(一三七の二)
四枚

三 警固御屋敷入地神崎忠治殿方之證拠

延享四年九月

下警固村私抱畠の内依御所望進上仕ニ付證拠の事

(一三八)
卷紙(包紙入)一通

三 立山開書付

宝曆三年八月

那珂郡市瀬村之内御拝領志作證文

(一三九)
長綴(包紙入)一綴

四 那珂郡市瀬村之内御拝領志作證文

宝曆十二年十二月

味岡団右衛門外方吉田式部宛

(一四〇)
卷紙(包紙入)一通

五 柳ヶ原志作證文

宝曆十二年十月

嶋井市大夫・宮川次郎左衛門・永田伊左衛門方吉田式部宛

(一四一)
卷紙(包紙入)一通

二六 宗像郡野坂村抱磯辺原ニ而下田拾七步御求被成同村百姓惣次売證文

明和四年三月二十二日

(一四二)
一紙(包紙入)一通

売主野坂村惣治方芝尾喜内宛

二七 柴尾半平依願御買上畠八並村山ノ口同村郷ヶ浦追證文共

天明八年・寛政九年・文化五年外

樫実種辛子抜荷番所のための地所拝借願外

(一四三)
一紙(包紙入)四通

二八 宗像郡野坂村金平銀子拝借為御禮同村之内持来畠永代差上證文

寛政九年五月

野坂村金平方高山佐大夫宛

(一四四)
卷紙(包紙入)一通

二九 田畑永代書物

寛政十年五月指出

売主本木村弥作方豊嶋又藏外宛

(一四五)
卷紙(包紙入)一通

三〇 山屋敷定書

弘化二年十月

吉田家持山の山家敷に關す(火用心第一外)

(一五〇)
切紙 一通

三 覚

嘉永元年十二月三日

御山方宛。花見御山番人数に付いて、御山番の内出福勤の廉

(六一一)
切紙 二通

三 郡方の記録拔書

文化十四年

御預郡の儀。付、吉田家御預郡の覚

(一六五)
小横綴一綴・一紙一通

三 (仮題) 覚

(明治四年)辛未十一月二十八日

福岡縣庁庶務懸方吉田敏之助宛。宗像郡野坂村ふち倉山に關して

(一二六)
一紙 一通

三 覚

(江戸中期)未十月

吉田家所有地に付

(四二二)
切紙 一通

三 吉田家屋敷地由来

(江戸)

瓦町屋敷

六 確証一札

明治十年十月十九日

柴田平七・中村元三吉田庚宛。林讓渡の件

七 本木山賣渡ニ付村吏ヨリ後年異儀不申立旨差入確証

明治十一年一月十八日

桑野孫四郎吉田雅宛

(四二四)

巻紙 一通

(一二七)

書綴(包紙入)一綴

(一四六)

(包紙入)一通

9 絵 図

一 筑前拾五郡觸分仮名附

(江戸後期)

二 筑前国御境目図

(江戸中期)

三 筑前国十五郡絵図

(江戸後期)

四 福岡城下絵図

(江戸末期)

五 福岡より長崎迄海上里程図

(江戸末期)

六 御城図

享保九年於江戸写

江戸

七 屋敷図

吉田家文書

小横帳 一冊

(二〇)

(六七)

一通

(六一)

一通

(五二八)

(袋入)一枚

(六六)

一枚

(九五)

一枚

(四三八)

明治七年三月

一紙 一通

10 吉田家

(1) 家訓・遺書

一 遺書

正徳二年四月二十一日

治年吉田又助・久野駒之丞・櫛橋十左衛門宛

二 節山居士遺書

正徳二年四月二十一日

治年吉田又助宛

三 意解

享保七年八月十五日

竹翁吉田又助宛。子孫訓戒を著す

四 遺書(写)

元文二年六月朔日

竹翁吉田六郎大夫・七左衛門外宛

五 遺書

元文二年六月朔日

竹翁吉田六郎大夫外三名宛。竹田伊久八新知被下に付

六 宝永五年春從治年公被下候御訓書

元文五年四月十九日

榮年保年宛。船中にて可持參物

七 治年君ノ訓戒書

元禄九年外

(四六七)

一紙(包紙入)一通

(五五一の二)

巻紙(包紙入)一通

(五五二)

巻紙 一通

(四六三)

切紙(包紙入)三通

(五五一の二)

巻紙(包紙入)一通

(一一二)

切紙(包紙入)三通

(一六一)

切紙 三通

付、治年高成幼子教示書附(安永三年)、禁制

八 禁戒之御書附

宝曆九年文月

切紙(包紙入)三通

(四八五)

雲違方吉田直年宛。名跡再興ニ付、吉田六之助方又助宛(訓戒に添御書

九 家訓

安永七年五月

書冊 一冊

(四)

直年千幕業齋書

(2) 御名拝領

一〇 (仮題) 「高一字」授与の事

元文五年八月二十一日

折紙(包紙入)一通

(三八五)

継高方吉田六郎太夫宛

二 覚

宝曆四年

小横綴 一綴

(八六)

吉田六郎左衛門へ式部と御名被下候ニ付御礼一件

三 (仮題) 御一字拝領覚

宝曆十二年

切紙 一通

(四九四)

継高御一字久兵衛拝領の事

三 御称号

明和七年十二月十五日

(包紙入)一通

(四五四)

吉田久兵衛宛。可為黒内

(3) 拝領

四 (仮題) 覚

(江戸中期)

(長綴 一綴)

(四九九)

拝領覚

二五 (仮題) 吉田家々中へ料理被下先例

元禄十一、宝永三年

折紙 一通

(六九)

二六 書状

元文四年正月二十八日

切紙 二通

(三八七)

高原次郎兵衛方節山宛。御弓の鷲御拝領

二七 書状

元文四年正月十九日

書綴 一綴

(三八九)

御年賀御祝の節御詠草色紙等御拝領、右ニ付御礼御肴御献上

二八 御尋ニ付時々礼草案頂載物等書付

宝曆七年

切紙(袋入)八通

(二五三)

付、宝曆十一年「覚」立山御返シ被下候ニ付

二九 御称号

明和七年十二月十五日

折紙 一通

(四五四)

吉田久兵衛。可為黒田

(4) 由緒

三〇 家筋覚書

1 吉田勝兵衛吉田仁太夫家筋覚書

(江戸中期)

巻紙 一通

(一一三の二)

2 覚

(江戸中期)

切紙 一通

(一一三の二)

加藤玄蕃一家書上(孚侃孫の名)

3 繁沢弥右衛門系図略記

(江戸中期)

巻紙 一通

(一一三の三)

4 吉田齋宮家筋

(一一三の四)

(江戸中期)

5 坂井善左衛門家筋覚

(江戸中期)

6 吉田久左衛門家筋覚

(江戸中期)五月十二日

7 福田氏相統

(江戸中期)

書状(三月晦日山内分右衛門より吉田七左衛門)外

8 吉田喜内覚書

(江戸中期)

系図

9 長崎町年寄傳時兵衛勤筋覚

(江戸中期)

10 (仮題)黒田家吉川家間柄由緒覚

(江戸期)

宝曆十三年来瑛光院様初而御入部の節の事

二 吉田六之助之始終

享保九年十二月二十日

竹翁書

三 覚書

(貞享)宝永期)

野村信言。丑之助に関する記録

三 (仮題)覚

明治十一年四月十六日

百五拾回忌に書留心性院の由緒

巻紙 一通

(一一三の六)

巻紙・切紙各一通

(一一三の七)

巻紙 一通

(一一三の八)

切紙 五通

(一一三の九)

巻紙 一通

(一一三の一〇)

巻紙 一通

(一一三の五)

巻紙 一通

(五五六)

書冊 一冊

(五三五)

小横帳 一冊

(五九七)

一紙 一通

(五九七)

一紙 一通

(五九七)

一紙 一通

(五九七)

(5) 家 政

一 公儀江上願書之控

元禄八年

口上の覚、覚(借銀返済の積)

二 高成様用心銀目録

延享元年十二月

三 盛年様書

1 演舌書

(江戸期)

弘化五年(我等着料之六具新制之存意)。戊十月(家政検約)外二綴

2 御教訓一通御書附類

(江戸期)

3 暮山盛年様筆

(江戸期)

禁制(安永二年四月晦日)、吉田家家臣に対する覚書(安永八年九月)

検約下地草案。嘉永三年七月利至並書判追々年ノ字讓ルト、榎吉トハ一畝先考、幼名外

4 平尾山御成の記

享保十九年(延享二年)

付、濱屋敷御成之記(元文二年)。箕子町濱屋敷建設(安永七年十月)

五 金借用証

明治二十九年三月二十七日

貸人吉田一畝、借人伊崎浦鎌田昌邦

六 金借用証

明治二十六年

一紙(包紙入)二通

(五二)

一紙(包紙入)一通

(四七三)

一紙(包紙入)一通

(一一一の二)

長綴三綴・巻紙一通

(一一一の二)

切紙(包紙入)一通、小横帳一冊

(一一一の二)

長綴一綴、折紙一通、一紙四通

(一一一の三)

袋入)長綴二綴・書綴一綴

(五九六の二)

一紙 一通

(五九六の二)

借人住吉村大字春吉結城部、貸人鎌田昌邦

元証

明治十一年十二月一日

吉田雅。石碑料、祭典入費受取

三証

(明治以降)二月十日

第十七国立銀行福岡支店と吉田庫宛。利足請取

三請取証

明治十三年九月二十一日

石田勉之助外と吉田一畝宛

三(仮題)約定書

明治十三年九月二十一日

石田勉之助外と平兮眉山宛。賃借関係に付

三約定書

(明治以降)

他県行に際し負債金無御座ことの証

三(仮題)金銭覚

(明治二十一年〜二十九年)

三記

(明治以後)

雅渡分金銭書上

三(仮題)金銭書付

明治二十三年、二十四年

地方税等書上

(6) 御成一件

(五九六の三)

一紙 一通

(五九六の四)

一紙 一通

(六〇〇)

一紙 一枚

(五九八)

一紙 一通

(五九五)

一紙 一通

(六一九)

一紙 一通

(六〇四)

切紙 一通

(六〇七)

長綴(小) 一綴

三(仮題)覚

(江戸中期)

上橋屋敷へ御成覚、栄年・保年の時

三(仮題)覚

(江戸中期)

芳雪軒等へ御成一件

三(仮題)覚

(江戸中期)

浜屋敷へ御成一件、栄年の時

三(仮題)覚

(元文五・六年)

観海亭・芳雪軒・錦葉寓二御成一件

三(仮題)覚

元文六年

芳雪軒へ御成一件

三(仮題)覚

(江戸中期)

観海亭御成一件

(7) その他

三・宣政様御筆

正徳二年五月二十八日

吉田式部の四字

三(仮題)覚

享保十六年十一月

栄年公御拝領南天の葉

(五〇〇)

一紙 一通

(五七三)

一紙 四通

(五八四)

巻紙 一通

(五九一)

切紙 一通

(六一〇)

一紙 一通

(六一八)

切紙 一通

(六三〇)

切紙(包紙入)一通

(六二三)

切紙 一通

望 覚書

安永八年九月 (四四四の六・七)
小横帳 二冊

齋家の助力にも可相成哉与愚慮之荒増覚書。家斉の儀安吉為二成不申との
意見に付

望 書状

(江戸期)三月九日 (二六〇)
折紙(包紙入)二通

小早河式部吉田久太夫宛。十左衛門へ免状認申ひ間云々

望 延年様之自筆

1 致勤申度旨願書指出に付 (二五七)
長綴(包紙入)一綴

延享元年

2 長崎武番々持越之唐金石火次第有之筒二候哉、竹田条太夫へ相尋
候処荒増相咄候間、覚のため記置

文化十四年 切紙(包紙入)一通

3 補導心得伺書

文政七年 長帳(包紙入)二冊

4 子供二心得度趣向書付

(江戸期) 切紙(包紙入)一通

望 (仮題)覚

(江戸中期) 切紙 一通 (六一四)

家紋極の件

望 書状

(江戸後期) 折紙 一通 (五九二)

家紋極の件

望 (仮題)覚

嘉永五年八月 切紙 一通 (五八七)

乳母の条件に付

五 吉田自観高年吉田弾番高直明細書并旅行之度数書付

安永二年閏三月十一日 (四八一)
切紙(包紙入)五通

五 御土産被遣候覚

(江戸中期) 切紙 一通 (四五〇)

陽受院外への土産

五 彦岐守様御判

(江戸期) 切紙(包紙入)十二枚 (四八八)

五 (仮題)吉田六之助(九才、閑溪宗徹居士)の筆

享保六年 一紙 二枚 (五五五)

「父」、「母」

五 (仮題)覚

文政三年六月 折紙 一通 (五七〇)

吉太郎髪置祝次第書取調外

11 文化

一 筑前守詠歌二首

享保二年十一月十七日 切紙(包紙入)一通 (四〇六)

二 (仮題)平尾山荘詞花集

(享保年中) 小横帳 一冊 (二六)

三 芳雪軒・錦葉寓の辞

(享保年中カ) 小横帳 一冊 (二五)

四 儀あそび

享保二十年 小横帳 一冊 (二八)

和歌

五 平尾山へ被為成同所二而拝領被仰付御詠御等之御歌

(四五九)

元文三年十月三日

継高

六 本州名所和歌

寛保三年六月

笠原勝久

七 詠草

寛延三年

平尾山御成の節

八 御詠歌

宝曆九年拝領

広瀬清兵衛筆

九 改正両面年号重宝新雜書

文化十四年発行。木版

一〇 家製痲病薬法

天保八年

二 日本地名便覽

天保九年四月新刻。木版

京都勝村治右衛門外

三 弘化年間笛条四郎家被相渡書附之写

天保十五年、弘化二年

書画目錄吉田六郎太夫盛年先祖

三 和歌幣袋

寛政八年九月発兌、嘉永二年四月補刻。木版

四 俳諧季寄掌中手桃燈

元治二年再刻。木版

馬喰町森尾治兵衛板

(包紙入)一通

(二〇九)

卷紙 一卷

(四五七)

(包紙入)一葉

(五四九)

折紙 一通

(四八)

切紙一通

(二九)

小横帳 一冊

(二四)

小横帳 一冊

(一五八)

卷紙・切紙(包紙入)各一通

(二五)

小横帳 一冊

(一四)

小横帳 一冊

一五 千鳥丸

(江戸後期)

大友家ノ千鳥ト号ス疱瘡の薬

一六 痲病薬之本書

(江戸期)

一七 (仮題)長光院詠草

(江戸中期)

一八 詠草

(江戸期)

一九 延年様御自詠六葉

(江戸中期)

二〇 詠草外

(江戸期)

二一 平尾立山御歌会

(江戸中期)

二二 (仮題)俳句様一書

(江戸期)

二三 竹翁様竹画外

(江戸期)

二四 此君居十八景詩

(江戸中期)

二五 此君居佳境の小序

(享保二十年三月)

二六 直年詠草

(江戸中期)

(三〇)

小横帳 一冊

(四七)

切紙(包紙)二通

(六一三)

一紙 一通

(六一二)

一紙 一通

(四五八)

短冊(包紙入)六葉

(四四四の三・四・五)

切紙 三通

(四三二)

切紙(包紙入)一通

(四三一)

一紙 一通

(四二九)

(包紙入)二枚

(四二八の二)

書冊 一冊

(四二八の二)

小横帳 一冊

(三六三)

折紙二通・切紙三通

三七 詠草

(江戸後期)

切紙 一通 (四七二)

三六 御詠草

(江戸期)辰八月

色紙(包紙)一枚 (二六六)

元 沈燮庵詩歌銘列

(江戸中期)

書四 一冊 (二七)

竹田春庵定直訓点

三〇 続掌中和歌明題集

(江戸期) 木版

小横帳 一冊 (一三三)

三一 (仮題)吉田公詠歌

(江戸期)

巻紙 一通 (四二三)

三二 竹画

(江戸中期)

(包紙)一枚 (四六八)

節山

三三 狩野昌運書状外

(江戸期)三月十日

切紙 四通 (二六三)

狩野昌運と北方仁兵衛宛。書画の値段

三四 尚古仮字用格

(江戸期) 木版

折本 一冊 (二二)

三五 風教百首講説

明治二十一年四月発行

書冊 一冊 (三七)

千家尊福著

三六 文典言語

明治二十五年七月

書冊 一通 (一八)

落合直文著、翠迺舎写。仮字遣

三七 文典言語(体用語所屬、助辞)

(二〇)

吉田家文書

明治二十五年長

落合直文著、美と理

書冊 一通

三六 万葉落穂 全

明治二十六年一月

書冊 一冊 (一九)

翠農舎

三六 ことはのやちまた

(明治期)写

書冊 一冊 (二一)

本居大平著、滴翠舎写

三六 摺拾帖、野山のはな、花のしらくも

(明治以降)写

小横帳 一冊 (二三)

和歌

三六 詞洒菜一く三

(明治以降)写

書冊 四冊 (三一)

三六 字音かなつかひ

(安永五年発行)

書冊 一冊 (三二)

本居宣長著。滴翠舎写

三六 ともかゝみ・呉竹集てにをは

(明治以降)写本

書冊 一冊 (三四)

滴翠舎写

三六 国語故事捷引稽古辞典 下巻

明治三十年一月刊

書冊 一冊 (三八)

松田敏足編

三六 (仮題)詩歌

(明治以降)

(六二九) 一通

12 宗 教

- 一 鳥飼八幡宮宵夜燈證文
宝永五年正月元日
一紙(包紙入) 一通 (二二五)
- 二 奉納柳本大明神寶前和歌五十首
延享三年調
卷紙 一卷 (一一〇)
- 三 筑前国宗像郡野坂村吉田氏真靈縁起(破損)
寛延四年
卷紙 一通 (六二二)
- 四 覚
安永二年四月九日
一紙 一通 (五六八)
- 五 盛年公筆山神祭文
(弘化三・四年)
山神祭之法(弘化四年、盛年誌・祝詞(弘化三年十二月・盛年誌)・祝文
一紙(包紙入)一通 (四三〇)
- 六 書付写
正徳四年、寛延四年、嘉永四年写
書冊 一冊 (五一九)
- 七 龍光院様二百五拾回御忌前録
吉田氏靈社神奉祭宣命
嘉永五年五月十九日
長帳(小) 一冊 (一九四)
- 八 龍光院様御遠忌覚書
嘉永六年正月十六日(三月十四日)
長帳(小) 一冊 (一九五)
- 九 御神祭一件
嘉永六年七月
長帳(小) 一冊 (一九六)

- 一〇 (仮題) 追善謁龍徳庵性宗書之
(江戸期)
一紙 三枚 (五五四)
- 二 性宗往返の書状
1 性宗書状
(江戸期)臘月二十六日
卷紙 一通 (五五〇の一)
- 2 書状
節山竹翁宛。法事外
享保八年三月十三日
卷紙 一通 (五五〇の二)
- 3 性宗書状
性宗と節山竹翁宛。又助悻六之助追善の御回向相勤候報告
(江戸期)仲冬初
卷紙 一通 (五五〇の三)
- 4 書状
節山竹翁宛。追善の御回向勤候報知、又助改名の事
享保九年十一月十七日
折紙 一通 (五五〇の四)
- 5 書状
節山竹翁と性宗宛。回向の報知
享保七年三月十三日
折紙 一通 (五五〇の五)
- 三 (仮題) 覚
(寛文五年十二月)
社地の外堀埋為神田外
一紙 一通 (四二一)
- 三 (仮題) 覚
(明治以降書上)
瑞光院外埋葬地
切紙 二通 (六二五)
- 四 仏壇祭之覚
(江戸中期)
一紙 一通 (五七一)

直年公御直筆写

二五 (仮題) 水安様御碑銘御さらへ之儀

(江戸後期)

巻紙(包紙入)一通 (五五三)

二六 (仮題) 覚

(江戸期)

切紙 一通 (六一五)

久原村大歳神社の事

二七 柳原大歳宮故由記

(江戸後期)

書冊 一冊 (四五五)

糟屋郡久原村大歳神社由来

二八 八幡宮午王宝印紙

(江戸期)

切紙 二通 (二一一)

二九 雑書

(江戸期)

(包紙入)一紙四通、折紙一通、切紙六通、長綴一綴 (二六八)

出雲大社神主広瀬家由緒書、書状、刀名由緒外

三〇 伊勢参宮大和巡り極荒増紀行

明治六年

小横帳 一冊 (四二七)

13 書 状

一 書状

宝永五年二月二十一日

折紙 一通 (四〇二)

大隅吉之方吉田七左衛門宛。職分祝儀到来に付

二 書状

正徳四年八月四日

切紙 一通 (二二〇)

榊橋治左衛門勤め御断の儀

三 書状草稿

吉田家文書

(八八)

(享保九年)午四月十日

切紙 一通

吉田七左衛門と大野十郎太夫宛。私所持の黒鹿毛の馬の件

(四〇八)

享保十九年三月六日

折紙 二通

和歌山と吉田六郎太夫宛。平井弥太夫と六郎太夫宛。栄年五十歳賀御詠歌賜の節

の節

四 書状

元文三年二月二十八日

(包紙入)折紙三通合綴 (四一八)

桂光院と吉田六郎太夫宛

五 書状

嘉永六年七月

切紙 一通 (四七七)

盛年と三芳勝右衛門宛

六 断簡

(江戸期)卯月二十一日

折紙 一通 (三〇〇の一)

吉田升之助と白国兵左衛門宛。馬の件

七 書状

(江戸期)五月二十一日

折紙 一通 (三〇〇の二)

吉田七左衛門と吉田兵右衛門宛。吉之公へ治平と被召上候二付代り馬下サルベキ旨云々

八 書状

(江戸期)五月二十七日

折紙 一通 (三〇〇の三)

松本弥右衛門と吉田又助宛。黒鹿毛馬の件

九 書状

(江戸期)六月十五日

折紙 一通 (三〇〇の四)

大野十郎太夫と吉田七左衛門宛。黒鹿毛馬の件

二 書状

(江戸期)六月十五日

折紙 一通 (三〇〇の五)

(江戸期)七月十六日

折紙 一通

松本半太郎と吉七左衛門宛。馬の件

三書状草案

(江戸期)七月十八日

折紙 一通

吉田兵右衛門宛。馬の件外

三書状

(江戸期)八月二日

折紙 一通

丹安左衛門と吉田七左衛門宛。若殿様駒貴殿へ被遣件

四書状

(江戸期)八月五日

折紙 一通

大野十太夫と吉七左衛門宛。御駒拝領の礼

五書状

(江戸期)八月五日

折紙 一通

大野十太夫と吉田七左衛門宛。代りの馬拝領に付

六書状

(江戸期)八月十二日

折紙 一通

母里六郎右衛門・三坂藤兵衛と吉田又助宛。馬一件

七書状

(江戸期)壬四月二十日

折紙 一通

吉田兵右衛門と吉田七左衛門宛。黒毛馬召上候一件

八書状

(江戸期)二月晦日

一紙 一通

稲川左内勝興と吉田六郎太夫宛。今般御当地御出立の由

九書状

(江戸期)

巻紙 一通

佐竹大膳大輔奥方と栄年宛。先達ての便に御兄様云々

三書状下書

(江戸中期)

切紙 一通

吉田七左衛門と丹安左衛門宛。若殿様御駒拝領被仰付難有

三書状

(江戸期)

切紙 一通

丹後守并長崎奉行への書状の件

三書状

(江戸中期)七月十九日

切紙 一通

吉田七左衛門と丹安左衛門宛。入御内見候書付の件

三書状

(江戸中期)九月二十六日

切紙 一通

吉田七左衛門と丹安左衛門宛。口上書被入上覽可被下候

二 網政公御部屋の節治年ニ来奉書

1書状

(江戸中期)五月十日

折紙 一通

福山長次郎外と吉田七左衛門宛。当地風説彼是趣言の上の上光之様御返答ニ付云々

2書状

(江戸中期)八月五日

折紙二通合綴

肥前守と黒田半衛門宛。十左衛門を参勤の供に召連申度事。付、福山長次郎と吉田又助宛書状(十左衛門の事。八月六日)

3書状

(江戸中期)六月十七日

折紙 一通

福山長次郎外と吉田七左衛門宛。出産祝状

4書状

(江戸中期)九月二日

折紙 一通

佐竹大膳大輔奥方と栄年宛。先達ての便に御兄様云々

福山長次郎外方吉田又助宛。御絵書下候様ニと被仰出
5書状

(江戸中期)五月二十九日

(三九四の五)
折紙 一通

福山長次郎外方吉田又助宛。洞雲絵御下可被遣候処
七左衛門様陽受院様随性院様御状

1書状

(江戸中期)六月二十二日

(四〇一の二)
折紙 一通

2書状

(江戸中期)八月十九日

(四〇一の二)
折紙(包紙入)一通

3書状

七さえもんちよし田又助御内宛

(江戸中期)六月三日

(四〇一の三)
折紙(包紙入)一通

4書状

七さえもんちよし田又助御内宛。婚礼相調

(江戸中期)正月二十五日

(四〇一の四)
折紙(包紙入)一通

5書状

七さえもんちよし田又助おく宛。春の御祝儀互にめでたく候

(江戸中期)七月二十三日

(四〇一の五)
折紙(包紙入)一通

6書状

七さえもんち吉田又助おく宛

(江戸中期)六月二十日

(四〇一の六)
折紙 一通

7書状

よし七左衛門あ

(江戸中期)

(四〇一の七)
折紙 一通

二日に番代いたし候得共、だんなさま留守に付とよりういたし居候

吉田家文書

8書状

(江戸中期)正月二十八日

(四〇一の八)
切紙(包紙入)一通

9書状

吉田七左衛門方吉田又助おく宛

(江戸中期)八月二十六日

(四〇一の九)
巻紙(包紙入)一通

10書状

吉田七左衛門方吉田又助おく宛

(江戸中期)

(四〇一の一〇)
切紙(包紙入)一通

11書状

七さえもんち又助おく宛

(江戸中期)九月二十七日

(四〇一の一一)
折紙 一通

12書状

七さえもんち又助おく宛

(江戸中期)正月二十五日

(四〇一の一二)
折紙(包紙入)一通

13書状

随性院あ。春の祝めてたく候

(江戸中期)六月二日

(四〇一の一三)
巻紙(包紙入)一通

14書状

吉田七左衛門方吉田又助おく宛

(江戸中期)五月廿八日

(四〇一の一四)
巻紙(包紙入)一通

15書状

七左衛門方又助おく宛。着坂報知

(江戸中期)六月十六日

(四〇一の一五)
切紙 一通

16書状

七さえもんちおかゑ宛

(江戸中期)六月二十一日

(四〇一の一六)
折紙(包紙入)一通

四五

七左衛門と吉田又助おく宛

17書状

(江戸中期)

やうしゅ院と吉田又助おく宛

三書状

(江戸中期)五月二十八日

和歌山と吉田六郎大夫宛。御前様御筆の御詠草御拝領被成二付

七書状

(江戸中期)

利と吉田六郎大夫宛。下谷佐竹大膳大輔御前より栄年への書

三書状

(江戸中期)九月二十三日

吉田久太夫と吉田七左衛門・吉田丑之助宛。大膳事の時分忠之方彦岐へ被遣候御書写外

元(仮題)覚

(江戸中期)

三書状

(江戸中期)七月十七日

三(仮題)吉田七左衛門書状案文

(江戸中期)

三書状

(江戸中期)四月十一日

吉田牛助と七左衛門宛

三書状

(江戸中期)

歌代つばね和歌山と吉田六郎大夫宛

(四〇一の二七)

折紙(包紙入)一通

(四〇九)

折紙(包紙入)一通

(四一一)

切紙 五通

(四一五)

切紙 一通

(四五〇)

切紙 一通

(四五二)

切紙 一通

(四五三)

切紙 一通

(四二六の二)

折紙(包紙入)一通

四書状

(江戸中期)

歌代つばね和歌山と吉田六郎大夫宛

三書状

(江戸中期)二月二十八日

和歌山と吉田六郎大夫宛

三書状

(江戸中期)

歌代つばね和歌山と吉田六郎大夫宛

七書状

(江戸中期)十四日

和歌山と吉田六郎大夫宛

三書状

(江戸中期)

藤とわか山宛

三書状

(江戸中期)壬四月十日

吉田七左衛門と吉田太右衛門宛。くる鹿毛馬可被召上の旨外

四書状

(江戸中期)卯月二十五日

吉田牛助と白国兵衛門宛。馬の件

四書状

(江戸中期)八月十五日

母里重右衛門・三坂藤兵衛と吉田又助宛。馬の件

三書状

(江戸中期)九月二日

(四二六の二)
折紙(包紙入)一通

(四二六の三)
折紙 一通

(四二六の四)
折紙(包紙入)一通

(四二六の五)
長綴(包紙入)一綴

(四二六の六)
切紙(包紙入)一通

(四四三の二)
一紙 一通

(四四三の二)
一紙 一通

(四四七)
切紙 一通

(四四八)
巻紙 一通

望書状
貞松ゐんちまつもと弥ゑもん宛
(江戸中期)五月廿一日

卷紙 一通
(四四九)

四書状
七左衛門と。家中の馬被召上候件
(江戸中期)七月十七日

切紙 一通
(四五二)

望書状
松本半太夫と七左衛門留守居宛。七左衛門拝領駒の件
(江戸中期)七月十八日

切紙 一通
(四五二)

望書状
吉田七左衛門と大野七太夫宛。駒拝領に付有難仕合
(江戸中期)四月十一日

切紙 一通
(四五三)

望書状
吉田牛之助と七左衛門宛。馬の件外
(江戸中期)十月二十七日

切紙 一通
(四六二)

望書状
吉田六之助と又助宛。祖父胸中をかけた御意解に付て
(江戸中期)五月三日

切紙(包紙入)二通
(四六六)

望書状
亦之進と久左衛門宛。貴殿御願書案文の件
(江戸中期)

切紙(包紙入)二通
(四八四)

望書状
美作と竹翁宛。梅道人竹の絵一幅致進覽候。付、吉田竹翁返書案
(江戸中期)十一月二十七日

折紙 一通
(四八七)

望書状
七左衛門と吉田又助宛
(五〇五)

吉田家文書

望書状
(江戸中期)十一月八日外
御前様出産報知外
一紙 三通

望書状控
(江戸中期)戌九月
鎌田八郎兵衛宛。書付一件
書綴 一綴
(五一五)

望書状案文
(江戸中期)
鎌田八郎兵衛宛。書付一件
卷紙(袋入)二通
(五二九)

望書状之案文
(江戸中期)
吉田六郎太夫と和歌山宛。御前様御書御請の下付、同御礼状下付
切紙(包紙入)一通
(五四七)

望書状
(江戸中期)十一月四日
中村市太夫と吉田雲遅宛。獵の事外
切紙 一通
(五七二)

望書状(断簡)
(江戸中期)卯月十五日
牛之助。遊行上人より給候守りの事外
切紙 一通
(五七七)

望書状
(江戸中期)
舟の御守ニ被相添候御訓書拜上
切紙 一通
(五八五)

望書状
(江戸中期)八月二十九日
原甚五右衛門と吉田六郎太夫宛。継高様其元様御出精候故と御満悦被成候
折紙 一通
(四一七)

望書状案文
(江戸中期)
吉田久大夫と毛利若狭外宛。御容体相伺云々
一紙(包紙入)一通
(一六二)

四七

六 書状

(江戸期)

一紙 一通

(五〇二)

蝶真方直年宛。発句御届可被下

六 書状草稿

(江戸中期)七月十四日

一紙 一通

(七八)

六 書状写

(江戸中期)卯月二十六日

一紙 一通

(七九)

私異風の流儀五年前ニ至御邪魔ニ相成候段、役儀被仰付候節より致決断覚悟の前にて候

六 書状

(江戸後期)七月十五日

切紙 一通

(八四)

六 書状

警固よりの尊書拝見

(一五九)

六 書状

(江戸中期)五年廿八日

折紙(包紙)一通

(一九九)

六 書簡(後欠)

(明治以降)

一紙 一通

(五九九)

当春米蠟下落に付

六 書簡(断簡)

(明治以降)

一紙 一通

(五七八)

婚札祝

六 書簡(断片)

(明治以降)

切紙 一通

(五七六)

六 書簡

(明治以降)

巻紙 三通

(五六四)

一美方一畝宛

六 毛利重輔書翰

明治三十三・三十四年

一紙 五通

(六二四)

吉敷郡毛利重輔方福岡西職人町吉田一畝宛

七 書簡

大正七年七月十一日

一紙 一通

(六〇二)

小野直路方吉田一畝宛。黒田家家令山中立よりの通達写入御覧候

14 その他

一(仮題)覚

(江戸期)

長綴(小) 一綴

(六〇六)

二(仮題)覚

(江戸期)

小横綴 一綴

(五八三)

三(仮題)覚

大阪・京の名所旧跡覚書

切紙 六通

(五七四)

四(仮題)献立覚(断簡)

(江戸中期)

切紙 一通

(六〇三)

道徳

五 書付

(江戸後期)

切紙 一通

(五一八)

改封不相成との書付

六 覚

(弘化年間)

切紙(包紙)一通

(四六九)

書画目録

七 (仮題) 目録

(江戸後期)

軸物外

八 狩野探信筆の御絵一枚栄年被賜、其時包紙の上書

(宝永期) 三月二十七日

九 (仮題) 覚

(江戸後期)

一〇 栄年手習本控(破損)

(江戸期)

二 御判物笥取分目録

(江戸期)

三 三段引出目録 一―三

(江戸期)

三 四段引出目録 一―四

(江戸期)

四 入記

(明治以降)

書画目録

五 福岡啓藩誌抜書

(明治以降)

六 記

(明治以降)

福岡博多の商人等書上

七 立目附

(明治以降)

小名書上

吉田家文書

切紙 一通 (四七一)

一紙(包紙入)一通 (四六〇)

断簡 一枚 (四三九)

(四三二の三) 一枚

(三四二の二) 小横帳 一冊

(三四二の一) 小横帳 三冊

(三四二の三) 小横帳 四冊

(四七八) 切紙 一通

(六二六) 一紙 二枚

(六一六) 切紙 一通

(六〇八) 折紙 一通

一九九四年三月十五日 印刷

一九九四年三月二十五日 発行

福岡市東区箱崎六一一九一一

発行所 九州大学文学部附属

九州文化史研究施設

印刷所 正光印刷株式会社
福岡市西区周船寺三丁目
二八一一

